

厚 生 労 働 大 臣 殿

開設者名 学校法人自治医科大学 理事長 大石 利雄

自治医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目6番3号
氏名	学校法人 自治医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

自治医科大学附属病院

3 所在の場所

〒329-0498
電話 (0285)44-2111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科							有
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科	<input type="radio"/>	
診療実績							
上記のほか、腎臓内科、血液科、内分泌代謝科、臨床腫瘍科、感染症科、緩和ケア科として医療を提供している。							

1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

(注) 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
上記のほか、消化器外科、乳腺科、腎臓外科、移植外科として医療を提供している。							

1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

(注) 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	美容外科	3	リハビリテーション科	4	病理診断科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
56	1	0	0	1,075	1,132	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	707	359	743.5
歯科医師	25	47	26.4
薬剤師	99	1	99.6
保健師	3	1	3.8
助産師	69	1	69.8
看護師	1338	31	1360.8
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	11	0	11
管理栄養士	29	1	29.2

職種	員数
看護補助者	11
理学療法士	29
作業療法士	11
視能訓練士	9
義肢装具士	0
臨床工学士	33
栄養士	18
歯科技工士	2
診療放射線技師	88

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	123
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	14	
その他の技術員	23	
事務職員	204	
その他の職員	1	

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 (注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	79	眼科専門医	8
外科専門医	68	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	8	放射線科専門医	23
小児科専門医	42	脳神経外科専門医	15
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	19
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	25
産婦人科専門医	26	救急科専門医	7
		合計	347

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 (注) 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (川合 謙介) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1日

令和3年4月～ 医療の質向上・安全推進委員会、QSMネージャー会議、自治医科大学附属病院医療安全管理監査委員会等の医療安全管理に係る会議のオブザーバーとして活動。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	805 人	12 人	817 人
1日当たり平均外来患者数	2,385 人	132 人	2,517 人
1日当たり平均調剤数		1,961	剤
必要医師数		219	人
必要歯科医師数		2	人
必要薬剤師数		27	人
必要(准)看護師数		493	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	2,909.39 m ²	鉄筋造 鉄筋コンクリート 造	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	34 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	587.55	m ²	病床数	8 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	85 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名	DI・TDM室			
化学検査室	214 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動血液ガス分析装置、自動免疫測定装置、自動細胞解析装置、血小板凝集装置等		
細菌検査室	92 m ²	"	(主な設備)	電気泳動装置等		
病理検査室	1,208.57 m ²	"	(主な設備)	感染防止対策用解剖台、ラミナーフローユニット、腎生検イメージングシステム、染色装置用コントロールシステム等		
病理解剖室	322.4 m ²	"	(主な設備)	解剖台、マイクロカuttingマシン		
研究室	16,460 m ²	"	(主な設備)	机、PC、コピー機、書棚 等		
講義室	400 m ²	"	室数	2 室	収容定員	130×2 人
図書室	3,678 m ²	"	室数	- 室	蔵書数	243,467 冊 程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	85.6	%	逆紹介率	77.5	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		22,257 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		22,311 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,386 人		
	D: 初診の患者の数		28,778 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
尾澤 巖	地方独立行政法人 栃 木県立がんセンター 理 事長／センター長	○	医療機関の管理者とし て、医療機関の安全管 理を総括・管理している経 験を有する立場で意見を 述べる者	無	1
内山 聖	(公財)新潟県保健衛生 センター 副会長 学校法人 悠久崇徳学 園 常務理事		医療機関の管理者とし て、医療機関の安全管 理を総括・管理している経 験を有する立場で意見を 述べる者	無	1
山口 育子	認定NPO法人 ささえあ い医療人権センターCO ML理事長		患者団体の理事長とし て医療問題に精通してお り、医療を受ける者の代 表として意見を述べる者	無	2
大槻 マミ太郎	自治医科大学 副学長		自治医科大学副学長とし て、大学理事の立場で意 見を述べる者	無	1
齊藤 正昭	自治医科大学附属さい たま医療センター 医療安全管理室 室長		自治医科大学附属さい たま医療センター医療安 全管理室長として、医療 安全管理の専門の立場 から意見を述べる者	無	1

「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

- (注)
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数(人)
細胞診検体を用いた遺伝子検査	118人
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	100人
子宮内膜擦過術	32人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計	3
取扱い患者数の合計(人)	250人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	9人
ゲムシタビン静脈内投与、ナブーパクリタキセル静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法	0人
遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤静脈内投与療法	0人
反復経頭蓋磁気刺激療法	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	4
取扱い患者数の合計(人)	9人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	10	56	ベーチェット病	119
2	筋萎縮性側索硬化症	52	57	特発性拡張型心筋症	36
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	17
4	原発性側索硬化症	2	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	16	60	再生不良性貧血	62
6	パーキンソン病	374	61	自己免疫性溶血性貧血	30
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	17
8	ハンチントン病	4	63	特発性血小板減少性紫斑病	88
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	12
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	135	66	IgA腎症	0
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	0
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	115	68	黄色靱帯骨化症	11
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	42	69	後縦靱帯骨化症	65
15	封入体筋炎	6	70	広範脊柱管狭窄症	11
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	0
17	多系統萎縮症	17	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	0	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライゾゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	28	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	4
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	5	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	221
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	38
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	105
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	17
34	神経線維腫症	19	89	リンパ脈管筋腫症	9
35	天疱瘡	72	90	網膜色素変性症	0
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	0	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	122
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	16
40	高安動脈炎	17	95	自己免疫性肝炎	131
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	332
42	結節性多発動脈炎	14	97	潰瘍性大腸炎	314
43	顕微鏡的多発血管炎	64	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	52	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	43	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バーシャー病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	681	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	302	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	52	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	101	107	若年性特発性関節炎	19
53	シェーグレン症候群	308	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	29	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	10	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	3	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	0
113	筋ジストロフィー	27	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	1	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	5	167	マルファン症候群	10
118	脊髄髄膜瘤	5	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジドリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	1	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	6	194	ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	1
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シン普森症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	2	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	12	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	6

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	9	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	1
215	ファロー四徴症	9	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	3	266	家族性地中海熱	4
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	49	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	5	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	2	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	17
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	4	274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	6	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	9	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	1
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	2
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	1	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	72
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	4
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	2	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	23
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	17

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	325	遺伝性自己炎症疾患	1
310	先天異常症候群	0	326	大理石骨病	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	328	前眼部形成異常	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	329	無虹彩症	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	331	特発性多中心性キャスルマン病	1
316	カルニチン回路異常症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
317	三頭酵素欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
318	シトリン欠損症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	335	ネフロン癆	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0	336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
321	非ケトーシス型高グリシン血症	0	337	ホモシスチン尿症	1
322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	118
合計患者数(人)	4,757

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
歯科外来診療環境体制加算2	ハイリスク妊婦管理加算
歯科診療特別対応連携加算	ハイリスク分娩管理加算
特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1 精神病棟10対1)	呼吸ケアチーム加算
臨床研修病院入院診療加算	術後疼痛管理チーム加算
救急医療管理加算	後発医薬品使用体制加算1
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算1
妊産婦緊急搬送入院加算	病棟薬剤業務実施加算2
診療録管理体制加算1	データ提出加算2・4
医師事務作業補助体制加算1 30対1	入退院支援加算1
急性期看護補助体制加算2.5対1(看護補助者5割以上)、夜間100対1急性期看護補助体制加算、夜間看護体制加算	入院時支援加算
看護職員夜間12対1配置加算1	入退院支援加算3
療養環境加算	認知症ケア加算2
重症者等療養環境特別加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
無菌治療室管理加算1	精神疾患診療体制加算
無菌治療室管理加算2	精神科急性期医師配置加算2のイ
緩和ケア診療加算	排尿自立支援加算
精神科身体合併症管理加算	地域医療体制確保加算
精神科リエゾンチーム加算	救命救急入院料1+救急体制充実加算1(SER 24床)(精神疾患診断治療初回加算、早期離床・リハビリテーション加算、小児加算)
摂食障害入院医療管理加算	特定集中治療室管理料1(PICU 8床)(小児加算、早期離床・リハビリテーション加算)
栄養サポートチーム加算	特定集中治療室管理料2(ICU 20床)(早期離床・リハビリテーション加算、早期栄養介入管理加算、小児加算)
医療安全対策加算1	特定集中治療室管理料3(CCU 10床)(早期離床・リハビリテーション加算)
指導強化加算(感染対策向上加算1)	ハイケアユニット入院医療管理料1(早期離床・リハビリテーション加算)
患者サポート体制充実加算	総合周産期特定集中治療室管理料(MFICU 12床、NICU 15床)(成育連携支援加算)
重症患者初期支援充実加算	新生児治療回復室入院医療管理料(GCU 21床)
報告書管理体制加算	小児入院医療管理料1(プレイルーム加算)(無菌治療管理加算、養育支援体制加算)
緩和ケア病棟入院料1	小児緩和ケア診療加算
児童・思春期精神科入院医療管理料(精神科養育支援体制加算)	バイオ後続品使用体制加算

看護職員処遇改善評価料	医療的ケア児（者）入院前支援加算
入院栄養管理体制加算	情報通信機器を用いた診療
新生児特定集中治療室重症児対応体制強化管理料	医療DX推進体制整備加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	角膜移植術(内皮移植加算)
ウイルス疾患指導料	羊膜移植術
外来栄養食事指導料(注3に掲げるがん専門管理栄養士が栄養食事指導を行う場合)	角結膜悪性腫瘍切除術
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
糖尿病合併症管理料	緑内障手術(流出路再建術)(眼内法)
がん性疼痛緩和指導管理料	緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
がん患者指導管理料イ	緑内障手術(濾過胞再建術)(needle法)
がん患者指導管理料ロ	網膜再建術
がん患者指導管理料ハ	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術
がん患者指導管理料ニ	経外耳道の内視鏡下鼓室形成術
外来緩和ケア管理料	人工中耳植込術
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
糖尿病透析予防指導管理料	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)
小児運動器疾患指導管理料	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
婦人科特定疾患治療管理料	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
腎代替療法指導管理料	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
一般不妊治療管理料	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
生殖補助医療管理料1	顎関節人工関節全置換術(歯科)
二次性骨折予防継続管理料1	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
二次性骨折予防継続管理料3	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
下肢創傷処置管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
慢性腎臓病透析予防指導管理料	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
がん薬物療法体制充実加算	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
プログラム医療機器等指導管理料	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
院内トリアージ実施料	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)

外来放射線照射診療料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
外来腫瘍化学療法診療料 1	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
連携充実加算（外来腫瘍化学療法診療料）	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
ニコチン依存症管理料	内視鏡下筋層切開術
療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
がん治療連携計画策定料	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
肝炎インターフェロン治療計画料	胸腔鏡下弁形成術
外来排尿自立指導料	経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術）
ハイリスク妊産婦連携指導料 1	胸腔鏡下弁置換術
こころの連携指導料（Ⅱ）	不整脈手術 左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）
薬剤管理指導料	経皮的中隔心筋焼灼術
医療機器安全管理料 1	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
医療機器安全管理料 2	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
医療機器安全管理料（歯科）	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
在宅患者訪問看護・指導料の注16に規定する専門管理加算	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	大動脈バルーンポンピング法（IABP法）
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	補助人工心臓
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）	植込型補助人工心臓（非拍動流型）
救急患者連携搬送料	経皮的下肢動脈形成術
救急患者連携搬送料	腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液）	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
経頸静脈的肝生検	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼機能検査	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
有床義歯咀嚼機能検査2のイ	腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））

精密触覚機能検査	腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
遺伝学的検査	腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
染色体検査の注2に規定する絨毛染色体検査	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
骨髄微小残存病変量測定	腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
BRCA1/2遺伝子検査	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
がんゲノムプロファイリング検査	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
先天性代謝異常症検査	体外衝撃波胆石破碎術
抗アデノ随伴ウイルス9型（AAV9）抗体	腹腔鏡下肝切除術
抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）	移植用部分肝採取術（生体）（腹腔鏡によるもの）
HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	生体部分肝移植術
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	同種死体肝移植術
検体検査管理加算（I）	体外衝撃波膀胱石破碎術
検体検査管理加算（IV）	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
国際標準検査管理加算	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
遺伝カウンセリング加算	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	同種死体膵移植術
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	同種死体膵腎移植術
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	生体部分小腸移植術
胎児心エコー法	同種死体小腸移植術
ヘッドアップテイルト試験	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
人工膵臓検査	内視鏡的小腸ポリープ切除術
長期継続頭蓋内脳波検査	腹腔鏡下直腸切除・切除術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
長期脳波ビデオ同時記録検査 1	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
脳波検査判断料 1	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
神経学的検査	腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
補聴器適合検査	腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
全視野精密網膜電図	同種死体腎移植術
ロービジョン検査判断料	生体腎移植術
コンタクトレンズ検査料 1	膀胱水圧拡張術
小児食物アレルギー負荷検査	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
内服・点滴誘発試験	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術

経気管支凍結生検法	人工尿道括約筋植込・置換術
画像診断管理加算 1	膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）
遠隔画像診断	精巣内精子採取術
ポジトロン断層撮影	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	腹腔鏡下仙骨腔固定術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
ポジトロン断層撮影（アミロイドPETイメージング剤を用いた場合）	腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影（アミロイドPETイメージング剤を用いた場合）	腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
CT撮影及びMRI撮影	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
冠動脈CT撮影加算	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
心臓MRI撮影加算	遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	体外式膜型人工肺管理料
外来化学療法加算 1	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）（医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術）
無菌製剤処理料	経皮的僧帽弁クリップ術
連携充実加算	骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
心大血管疾患リハビリテーション料（I）	緊急穿頭血腫除去術
脳血管疾患等リハビリテーション料（I）	胸腔鏡下肺切除術（区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
運動器リハビリテーション料（I）	腹腔鏡下臍中央切除術
呼吸器リハビリテーション料（I）	尿道狭窄グラフト再建術
がん患者リハビリテーション料	精巣温存手術
リンパ浮腫複合的治療料	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
歯科口腔リハビリテーション料 2	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
経頭蓋磁気刺激療法	医科点数表第2章第10部手術通則第19号に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対する乳房切除術に限る。）
救急患者精神科継続支援料	輸血管理料 I
児童思春期精神科専門管理加算	脳腫瘍覚醒下マッピング加算
療養生活継続支援加算（通院精神療法）	貯血式自己血輸血管理体制加算
認知療法・認知行動療法 1	自己クリオプレシペート作製術（用手法）
治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	同種クリオプレシペート作製術
医療保護入院等診療料	コーディネート体制充実加算
静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
多血小板血漿処置	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
エタノールの局所注入（甲状腺）	手術の時間外加算 1
エタノールの局所注入（副甲状腺）	手術の休日加算 1

人工腎臓	手術の深夜加算 1
導入期加算 3 及び腎代替療法実績加算	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	麻酔管理料 (I)
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	麻酔管理料 (II)
血漿交換療法 (1日につき) (難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法)	放射線治療専任加算
血漿交換療法 (1日につき) (移植後抗体関連型拒絶反応治療)	外来放射線治療加算
人工膵臓療法	高エネルギー放射線治療
処置の休日加算 1	1回線量増加加算
処置の時間外加算 1	強度変調放射線治療 (IMRT)
処置の深夜加算 1	画像誘導放射線治療 (IGRT)
ストーマ合併症加算	体外照射呼吸性移動体策加算
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	定位放射線治療
歯科技工加算	定位放射線治療呼吸移動対策加算
センチネルリンパ節加算	画像誘導密封小線源治療加算
自家脂肪注入	病理診断管理加算 2
組織拡張器による再建手術 (乳房 (再建手術) の場合に限る。)	悪性腫瘍病理組織標本加算
骨移植術 (軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	クラウン・ブリッジ維持管理料
後縦靭帯骨化症手術 (前方進入によるもの)	歯科矯正診断料
椎間板内酵素注入療法	顎口腔機能診断料 (顎変形症 (顎離断等の手術を必要とするものに限る。)) の手術前後における歯科矯正に係るもの)
腫瘍脊椎骨全摘術	口腔粘膜血管腫凝固術
内視鏡下脳腫瘍生検術	顎関節人工関節全置換術 (歯科)
内視鏡下脳腫瘍摘出術	歯科麻酔管理料
頭蓋骨形成手術 (骨移動を伴うものに限る。)	外来・在宅ベースアップ評価料 (I)
癒着性脊髄くも膜炎手術 (脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	歯科外来・在宅ベースアップ評価料 (I)
脳刺激装置植込術 (頭蓋内電極植込術を含む。) 及び脳刺激装置交換術	入院ベースアップ評価料82
頭蓋内電極植込術 (脳深部電極によるもの (7本以上の電極による場合)に限る。)	歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	歯科技工士連携加算2
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術 (便失禁)	光学印象
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術 (便過活動膀胱)	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法 (歯科)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	70回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	18件
	剖検率(%)	2.50%

(注)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと。

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
せん断応力負荷による血管平滑筋細胞の生体	相澤 啓	心臓血管外科	195万円	補委 日本学術振興会
A型大動脈解離シミュレーター回路を用いた	荒川 衛	心臓血管外科	130万円	補委 日本学術振興会
クローン病由来大腸菌に対するバクテリオファージの新規検査治療法としての基礎的検討	山本 博徳	消化器内科	4,290,000/3年分 (2022～2024年度)	補委 文科 基盤C
非アルコール性脂肪性肝炎と心疾患における酸化HDLの役割解明	五家 里栄	消化器内科	4,160,000/3年分 (2021～2023年度)	補委 文科 基盤C
小児から成人の消化管過誤腫性腫瘍好発疾患群の医療水準とQOL向上のための研究	坂本 博次	消化器内科	5,000,000/2年分 (2023～2024年度)	補委 厚労科研 難治性疾患政策
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	菅野 敦	消化器内科	100,000/1年 (2023年度)	補委 厚労科研 難治性疾患政策
バクテリオファージを用いた非アルコール性脂肪性肝炎のコリン代謝評価と治療応用	三浦 光一	消化器内科	4,290,000/3年分 (2022～2024年度)	補委 文科 基盤C
クローン病の小腸狭窄の内視鏡的定量的評価の意義とバルーン拡張術後再狭窄要因の解明	矢野 智則	消化器内科	4,810,000/5年分 (2023～2027年度)	補委 文科 基盤C
非アルコール性肝疾患におけるフェロトーシスの役割	前田 浩史	消化器内科	4,550,000/3年分 (2023～2025年度)	補委 若手研究
気道組織における病的モデリング(線維化)機構の解明と病的制御治療戦略の基盤構築	間藤尚子	呼吸器内科	3,250,000	補委 AMED (分担)
過敏性肺炎の全国疫学調査と疾患進行抑制のためのエクソソーム研究	坂東政司	呼吸器内科	65,000	補委 AMED (分担)
PD-L1陽性エクソソームを制御するCMTM分子群の解明と抗腫瘍免疫への展開	前門戸任	呼吸器内科	1,700,000	補委 文科省科研費 (基盤研究C)
癌性胸膜炎における免疫チェックポイント阻害剤の治療予測系の確立と効果増強戦略	間藤尚子	呼吸器内科	1,710,071	補委 文科省科研費 (基盤研究C)
特発性肺線維症の細気管支化における血管性ニッチの機能解明とその制御	久田 修	呼吸器内科	1,600,000	補委 文科省科研費 (基盤研究C)
改良コンディショナルプログラミングによる2型肺胞上皮細胞の新規培養法と機能解析	久田 修	呼吸器内科	299,355	補委 文科省科研費 (基盤研究C)
肺の恒常性維持・生体防御・組織修復を標的とした難治性呼吸器疾患治療法の開発と応用	久田 修	呼吸器内科	130,000	補委 文科省科研費 (基盤研究B) 分担
低価格3Dプリンターを用いた気管支鏡シミュレーション教育の効果検証	中山雅之	呼吸器内科	1,656,613	補委 文科省科研費 (若手研究)
肺がん免疫療法における新規効果予測検査の開発研究	澤幡美千瑠	呼吸器内科	754,539	補委 文科省科研費 (若手研究)

IL-10発現アデノ随伴ウイルスベクターによる難治性呼吸器疾患の新規治療法開発	黒崎史朗	呼吸器内科	2,588,677	補委	文科省科研費(若手研究)
びまん性肺炎患に関する調査研究	坂東政司	呼吸器内科	300,000	補委	厚生労働科学研究費(難治性疾患政策研究事業)
難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究	坂東政司	呼吸器内科	142,000	補委	厚生労働科学研究費(難治性疾患政策研究事業)
生体内で可視化できる肺癌の超微小転移モデルの確立	坪地宏嘉	呼吸器外科	117万円	補委	日本学術振興会
コンピューターシミュレーションを用いた肺癌術後の左房内血栓形成リスクの定量評価	遠藤俊輔	呼吸器外科	65万円	補委	日本学術振興会
eラーニングと肺模擬臓器を用いた胸腔鏡手術手技教育法の確立	山本真一	呼吸器外科	78万円	補委	日本学術振興会
革新的技術による微小転移の可視化と転移初期段階の分子機構の解明	柴野智毅	呼吸器外科	65万円	補委	日本学術振興会
非喫煙者肺がん早期発見に寄与する尿中エクソソーム中のmatrix metalloproteinase-1(MMP-1)およびmicroRNA-486-5pの発	坪地宏嘉	呼吸器外科	200万円	補委	喫煙科学研究財団
循環器病に対する複合リハビリテーションを含むリハビリテーションの現状と課題の明確化のための研究	藤本 茂	神経内科	720万円	補委	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
回復期以降の循環器病に対する多職種連携による患者支援体制の充実・普及に資する研究	藤本 茂	神経内科	100万円	補委	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
急性期脳梗塞に対する血管内治療の適応時間拡大を目的とした多施設共同ランダム化比較研究	藤本 茂	神経内科	85万5千円	補委	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業
MAIT細胞による脳梗塞急性期病態制御機構の解明と新規治療開発の基盤的研究	田中亮太	神経内科	90万円	補委	科学研究費助成事業基盤研究C
インドネシアでの、てんかん診療の質向上をめざしたデジタル脳波のワイドバンド成分の記録解析普及の実装研究	川合謙介	脳神経外科	315,900	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
希少てんかんに関する包括的研究	川合謙介	脳神経外科	550,000	補委	厚生労働省
臨床応用に向けた視床を介する大脳皮質の上行性調節機構の解明	川合謙介	脳神経外科	7,800,000 2,340,000	補委	文部科学省 基盤(B)
ヒト皮質脳波解析によるASMRの機序の解明	石下洋平	脳神経外科	700,000 210,000	補委	文部科学省 若手研究
大脳皮質-海馬ネットワークへの侵襲的計測・介入による時間見積機能の神経基盤の解明	大貫良幸	脳神経外科	400,000 120,000	補委	文部科学省 若手研究
非接触式3Dスキャナを活用した脳神経外科手術ARナビゲーションシステムの開発	大谷 啓介	脳神経外科	200,000 60,000	補委	文部科学省 若手研究
ヒト嗅覚情報処理の神経基盤解明	井林 賢志	脳神経外科	800,000 240,000	補委	文部科学省 若手研究
記憶時脳活動のニューロフィードバックによる機能的海馬移植の研究	國井 尚人	脳神経外科	1,400,000 420,000	補委	文部科学省 基盤(C)
迷走神経刺激による老化知覚ネットワーク変容の検証	熊谷 慎一	脳神経外科	900,000	補委	文部科学省 特別研究員奨励費
双方向トランスレーショナルアプローチによる精神疾患の脳子測性障害機序に関する研究開発	國井 尚人	脳神経外科	6,500,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

腎組織内薬物分布動態とメタボローム解析を融合したタクロリムス腎症機序解析	岩見 大基	腎臓外科	¥5,850,000	補委	科学研究費
成人T細胞性白血病/リンパ腫に対するTax特異的T細胞受容体遺伝子導入免疫細胞療法の医師主導治験	神田 善伸	血液学部門	10,010,000円/年	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成人T細胞性白血病に対する遺伝子導入細胞療法の最適化	神田 善伸	血液学部門	1,300,000円/年	補委	日本学術振興会
脂肪肝関連疾患にともなう動脈硬化性心血管疾患の二次・三次予防に資するヘルスケアサービスの指針策定及びシステム開発に関する研究	矢作 直也	内分泌代謝学	1,040,000	補委	AMED
ヒト破骨細胞分化を評価するための新規共存培養系の開発	佐藤浩二郎	アレルギー膠原病学	60万円	補委	文部科学省科学研究費補助金
トイモデルを利用したペーシェット病等炎症性疾患発症機序の解析	小又尉広	アレルギー膠原病学	150万円	補委	文部科学省科学研究費補助金
新規MRI撮像法を用いた末梢性顔面神経麻痺の画像評価法の確立、予後評価の検討。	藤井裕之	画像診断科	455万円	補委	日本学術振興会 科学研究費補助金 若手研究
難治性リンパ漏に対する胸管内リンパ液自動誘導システムの開発。	濱本耕平	画像診断科	403万円	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究◎
3次元医用画像タスクに汎用利用可能な事前学習モデルの確立と公開(23K17234)	菊地智博	画像診断科	455万円	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究◎
実臨床画像を用いた公開セグメンテーションモデルの性能評価と改善	菊地智博	画像診断科	100万円	補委	2023年AOMRI研究助成金制度
急性弛緩麻痺等の神経疾患に関する網羅的病原体検索を含めた原因及び病態の究明、治療法の確立に資する臨床疫学研究(22HA1003)。	森 壘	画像診断科	50万円	補委	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症及び予防 接種政策推進研究事業)。
前立腺癌術後照射患者における免疫チェックポイント分子機構の予後への影響。	白井克幸	放射線治療科	442万円	補委	日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究C
メチルフェニデート中毒の機序解明と治療薬の開発	塩田勝利	精神医学	4,550,000	補委	文科省
自己誘発嘔吐を伴う摂食障害に対する反復性経頭蓋磁気刺激療法	稲川優多	精神医学	4,680,000	補委	文科省
後縦靭帯骨化症バイオマーカーとしてのGla-rich proteinの有用性に関する検討	木村 敦	整形外科	1,300,000	補委	文部科学省
脊髄損傷後の2次損傷における炎症増幅因子1κBζの役割	白石 康幸	整形外科	700,000	補委	文部科学省
大動物モデルを用いた広範囲腱板断裂に対する骨付き膝蓋腱移植術の有用性評価	笹沼 秀幸	整形外科	2,200,000	補委	文部科学省
子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメトホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	藤原 寛行	産科婦人科学	1,300,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
思春期女性のHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18陽性割合の推移に関する疫学研究	藤原 寛行	産科婦人科学	195,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
妊娠28週未満発症の早産期前期破水妊婦に対するアジスロマイシン投与による気管支肺異形成の予防法の開発	大口 昭英	産科婦人科学	18,229,926	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新生児ヘモクロマトーシスに対する胎内ガンマグロブリン大量静注療法の医師主導治験	高橋 宏典	産科婦人科学	1,007,500	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

CRISPR/Cas9とAAVベクターを組み合わせた子宮頸癌に対する分子標的治療	葭葉 貴裕	産科婦人科学	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費(若手研究)
妊娠初期の血中microRNAを用いた癒着胎盤における新規診断法の構築	高橋 宏典	産科婦人科学	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
胎盤由来エクソソームによる妊娠高血圧腎症の予知法に関する研究	鈴木 寛正	産科婦人科学	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
血管新生および微小管調節因子ノボヒピン2を標的とした卵巣癌治療	小柳 貴裕	産科婦人科学	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
母体血中non-codingRNAによる妊娠高血圧腎症の発症予知法の開発	小古山 学	産科婦人科学	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費(若手研究)
妊娠初期妊婦レジストリ事業の発足並びに早産期発症妊娠高血圧腎症予測モデルの開発	大口 昭英	産科婦人科学	1,040,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
不妊治療における情報提供の方策等の確立に向けた研究	左 勝則	産科婦人科学	2,400,000	補委	こども家庭科学研究費
小児領域を含む薬剤耐性感染症対策に係る地域間連携の標準モデルの策定・推進に資する研究	伊藤 真人	耳鼻咽喉科	1,000,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
中枢に焦点をあてた顔面神経麻痺に対する遺伝子治療の開発	野田昌生	耳鼻咽喉科	455万円	補委	厚生労働科学研究費補助金
眼底画像とサイトカイン濃度のAI解析による加齢黄斑変性病態の解明基盤構築	高橋 秀徳	眼科学	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
慢性化した網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫の新規炎症マーカーの同定	新井 悠介	眼科学	2,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
造影を利用したカラー写真における網膜非灌流領域の深層学習による病態解明基盤構築	坂本 晋一	眼科学	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
蛍光眼底造影検査を用いない網膜新生血管の早期発見手法の確立	高山卓也	眼科学	1,700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
C-1 地方自治体の意思決定支援システム開発による、住民の医療資源アクセス提供体制の最適配置・財源調整、地域共生社会のための安全ネットワークの実現	畠山 修司	感染症学部門	10,000,000円	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児の骨髄異形成症候群に関連した急性骨髄性白血病のクローン多様性と進化の解析	嶋田 明	小児科学	1,100,000	補委	文部科学省
妊娠高血圧症候群と早産低出生体重児の心血管疾患・腎疾患関連遺伝子メチル化との関連□	河野 由美	小児科学	900,000	補委	文部科学省
ニューロレニンMRIと脳機能検査を用いたADHDの脳内ホルモン機能検証	門田 行史	小児科学	1,200,000	補委	文部科学省
遺伝子多型はADHD児の脳の薬物応答特性を変えるのか？	門田 行史	小児科学	600,000	補委	文部科学省
Rett症候群・MECP2重複症候群に対する発現量調整可能なAAV遺伝子治療開発	小島 華林	小児科学	1,000,000	補委	文部科学省
Foxp2による消化管・腸管神経系形成の分子機構と転写活性欠失変異の影響	神保 恵理子	小児科学	1,300,000	補委	文部科学省
MECP2の発現制御によるRett症候群/MECP2重複症候群の遺伝子治療開発	宮内 彰彦	小児科学	3,933,333	補委	文部科学省

後期早産児における視知覚認知の発達過程および発達リスクとの関係に関する基礎的研究	俣野 美雪	小児科学	1,000,000	補委	文部科学省
フェロトキシスを軸としたミトコンドリア病の病態解明と治療開発	三谷 忠宏	小児科学	1,300,000	補委	文部科学省
Niemann-Pick病C型の診断と治療効果判定のための新規バイオマーカー探索	渡邊 知佳	小児科学	1,100,000	補委	文部科学省
iPS細胞を用いた神経変性疾患SENDAの病態解明と新規治療開発	月田 貴和子	小児科学	1,400,000	補委	文部科学省
ランゲルハンス細胞組織球症における骨病変バイオマーカーの確立	森本 哲	小児科学	600,000	補委	文部科学省
AADC欠損症の遺伝子治療におけるドパミン神経系等の病態と改善機構の解析	山形 崇倫	小児科学	1,100,000	補委	文部科学省
リソソーム性シリアダーゼ欠損症に対する新規遺伝子治療法開発	伊藤 孝司	小児科学	2,200,000	補委	文部科学省
遺伝子発現制御機構の開発によるRett症候群及びMECP2重複症候群の遺伝子治療開発	小島 華林	小児科学	57,200,000	補委	AMED
遺伝性白質疾患・知的障害をきたす疾患の診断・治療・研究システム構築	小坂 仁	小児科学	15,000,000	補委	厚生労働省
アポモルフィンのLeigh脳症に対する治験準備	小坂 仁	小児科学	50,000,000	補委	AMED
グルコーストランスポーター1欠損症に対する遺伝子治療開発	小坂 仁	小児科学	30,000,000	補委	AMED
低出生体重児の中長期的な心身の健康リスクの解明とフォローアップ・支援体制の構築に向けた研究	河野 由美	小児科学	6,200,000	補委	こども家庭庁
オートファジー病SENDA/BPANに対する遺伝子治療開発	村松 一洋	小児科学	20,000,000	補委	AMED
オルニチントランスカルバミラーゼ(OTC)欠損症の遺伝子治療開発	村松 一洋	小児科学	60,000,000	補委	AMED
心房細動における家庭血圧計を用いた血圧管理指標の確立と心房細動検出に関する研究	渡部智紀	循環器内科学部門	400,000円	補委	科学研究費助成事業 (基盤研究C)
血圧遠隔モニタリング管理システムを用いた震災被災者の心血管リスク低減に関する研究	星出 聡	循環器内科学部門	400,000円	補委	科学研究費助成事業 (基盤研究C)
新規マルチセンサー自由行動下血圧脈波計を用いた心不全スクリーニング法の探索	成田圭佑	循環器内科学部門	700,000円	補委	科学研究費助成事業 (若手研究)
石灰化冠動脈病変に対するPCI後の血管反応機構解明および予後予測因子の探索	大場祐輔	循環器内科学部門	300,000円	補委	科学研究費助成事業 (若手研究)
生活習慣改善における『デジタル行動変容』評価指標の研究開発	苅尾七臣	循環器内科学部門	20,573,000円	補委	日本医療研究開発機構
尿細管特異的Nr2欠損による腎間質線維化増強作用に関する研究	菱田 英里華	内科学講座 腎臓内科学部門	800,000	補委	文部科学省 科学研究費
非閉塞性腸間膜虚血に対する水素ガス吸入療法の治療効果の解明	田中保平	自治医科大学 救急医学講座	¥1,040,000	補委	科学研修費助成事業
A novel treatment for REBOA complications: Hydrogen gas inhalation therapy to alleviate oxidative stress due to ischemia-reperfusion injury	松村洋輔	千葉大学 大学院医学研究院	¥520,000	補委	科学研修費助成事業

一般外科医のための外傷診療DCRTトレーニングコース』開発における有用性の証明	村上壮一	北海道大学 大学病院	¥65,000	補 委	科学研修費助成事業
下部消化管出血に対するイミベネムを用いた血管内治療の確立:腸管虚血回避に向けて	中間楽平	国立研究開発法人 国立がん研究センター	¥130,000	補 委	科学研修費助成事業
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 106 件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Terui K.	小児外科	Influence of surgical volume on the mortality and morbidity of gastrointestinal perforation in children.	2023 Aug 24. Online ahead of print.	Original Article
2	Anzai, T., Nakashima, N., Betsui, H.他	小児科学	Infant case of severe immune thrombocytopenia caused by COVID-19 infection.	EJHaem 4:1148-1151, 2023.	Case report
3	Asai, M., Gomi, A., Ibaraki, N. 他	小児科学	A case of papilledema in Camurati-Engelmann disease treated effectively with prednisolone.	Clin Pediatr Endocrinol 232:174-179,2023. doi: 10.1297/cpe.2023-0009. 2023.	Case report
4	Horiguchi, A., Koichihara, R., Kikuchi, K.他	小児科学	Efficacy of antiseizure medications in Wolf-Hirschhorn syndrome.	Neuropediatrics 54: 339-343, 2023.	Original Article
5	Hyuga, T., Fujimoto, K., Hashimoto, D.他	小児泌尿器	Wound healing responses of urinary extravasation after urethral injury.	Sci Rep 13(1):10628,2023. doi: 10.1038/s41598-023-37610-2. PMID: 37391520; PMCID: PMC10313654.	Original Article
6	Koshu, K., Muramatsu, K., Maru, T.他	小児科学	Neonatal onset of Niemann-Pick disease type C in a patient with cholesterol re-accumulation in the transplanted liver and inflammatory bowel disease.	Brain and Development 45(9): 517-522, 2023.	Case report
7	Kumagai, H.	小児科学	Japanese Pediatricians and Celiac Disease.	Pediatr Int 65(1): e15509,2023.	Others
8	Sato, T., Matsubara, D., Wang, Y.他	小児科学	Contraction Patterns of Post-Fontan Single Right Ventricle versus Normal Left and Right Ventricles in Children	Insights from Principal Strain Analysis. J Am Soc Echocardiogr 36: 878-887, 2023.	Original Article
9	Suzuki, Y., Kono, Y., Yada, Y. 他	総合周産期母子医療センター	Neonatal respiratory support related to lung function abnormalities in school-age children with bronchopulmonary dysplasia.	J Perinatol 43(3):337-344, 2023.	Original Article
10	Wakabayashi, K., Osaka, H., Ymagishi, H.他	総合周産期母子医療センター	Investigation of the efficacy and adverse effects of lacosamide over 36 months.	Epilepsy & Behavior 144: 109227,2023. Doi :10.1016/j.yebeh.109227,2023.	Original Article
11	Watanabe, C., Osaka, H., Watanabe, M.他	小児科学	Total and reduced/oxidized forms of coenzyme Q10 in fibroblasts of patients with mitochondrial disease.	Molecular Genetics and Metabolism Reports 34:100951,2023.	Original Article
12	Yamagishi, H., Tamura, D., Aoyagi, J.他	小児科学	Impact of the omicron phase on a highly advanced medical facility in Japan.	Front Pediatr 11:1201825,2023. doi: 10.3389/fped.1201825,2023.	Original Article
13	Yamagishi, H., Monden, Y., Michigami, T.他	小児科学	A case of osteopathia striata with cranial sclerosis with facial nerve palsies.	Pediatr Int 65(1): e15648,2023. doi: 10.1111/ped.15648.	Case report

14	Yokoyama, K., Yamamoto, Y., Nambu, R.他	小児科学	Safety and efficacy of vedolizumab in pediatric patients with ulcerative colitis: multicenter study in Japan.	J Gastroenterol Hepatol 38(7):1107-1115.2023.	Original Article
15	Yoshinari, H., Kawahara, Y., Asai, S.他	小児科学	Successful treatment with chemotherapy following liver transplantation in an infant with acute myelomegakaryoblastic leukemia presenting with acute liver failure.	第65回日本小児血液・がん学会学術集会: 182:P2-088.2023.	Others
16	Masao Noda, Ryota Koshu, Yuji Takaso et al.	自治医科大学小児耳鼻咽喉科	Role of Facial Nerve Reconstruction With Anastomosis and Polyglycolic Acid Tube in Accelerating Functional Recovery After Axotomy in the Rat Facial Nucleus.	Cureus 16(3) e57326 2024年3月	Original Article
17	Masao Noda, Takayoshi Ueno, Ryota Koshu et al.	自治医科大学小児耳鼻咽喉科	Performance of GPT-4V in Answering the Japanese Otolaryngology Board Certification Examination Questions: Evaluation Study	JMIR Medical Education 10 e57054-e57054 2024年3月28日	Original Article
18	Mari Dias Shimada, Masao Noda, Ryota Koshu et al	自治医科大学小児耳鼻咽喉科	Macrophage depletion attenuates degeneration of spiral ganglion neurons in kanamycin-induced unilateral hearing loss model.	Scientific reports 13(1) 16741-16741 2023年10月5日	Original Article
19	Masao Noda, Tatsuki Kuroda, Akihiro Nomura et al.	自治医科大学小児耳鼻咽喉科	Smartphone-Assisted Medical Care for Vestibular Dysfunction as a Telehealth Strategy for Digital Therapy Beyond COVID-19: Scoping Review.	JMIR mHealth and uHealth 11 e48638 2023年9月11日	Review
20	Masao Noda, Ryota Koshu, Mari Shimada Dias et al.	自治医科大学小児耳鼻咽喉科	Enhanced cochlear transduction by AAV9 with high-concentration sucrose.	Human gene therapy 34(19-20) 1064-1071 2023年8月29日	Original Article
21	Masao Noda, Mari Dias Shimada, Ryota Koshu et al.	自治医科大学小児耳鼻咽喉科	Efficacy of endoscopic powered intracapsular tonsillectomy and adenoidectomy for pediatric obstructive sleep apnea: A retrospective case-control study.	Auris, nasus, larynx 50(3) 383-388 2023年6月	Original Article
22	Yudai Tanaka, Takuto Nakata, Ko Aiga et al.	金沢大学	Performance of Generative Pretrained Transformer on the National Medical Licensing Examination in Japan	PLOS digital health 3(1) e0000433 2023年4月24日	Original Article
23	Jwa SC	産婦人科	Artificial oocyte activation using Ca(2+) ionophores following intracytoplasmic sperm injection for low fertilization rate.	Front Endocrinol. 2023;14:1131808	Original Article
24	Jwa SC	産婦人科	Fact-finding survey on assisted reproductive technology in Japan.	J Obstet Gynaecol Res. 2023;49:2593-2601.	Original Article
25	Ito C, Suzuki H	産婦人科	Placental Insertion into the Cervix with Cervical Shortening as a Clinical Sign to Suspect Cervico-Isthmic Pregnancy: A Case Report and Literature Review.	Case Rep Obstet Gynecol. 6 Feb 2023:1816955. doi: 10.1155/2023/1816955.	Original Article
26	Jwa SC	産婦人科	Impact of COVID-19 pandemic on assisted reproductive technology treatment under voluntary lockdown in Japan.	Reprod Med Biol. 2023;22:e12541.	Original Article

27	Jwa SC	産婦人科	Model-based estimation of the health care expenditure and out-of-pocket payment for assisted reproductive technology: A retrospective linkage study using the Japanese national ART registry.	J Obstet Gynaecol Res. 2023;49:1778-1786.	Original Article
28	JwaSC, Takahashi H	産婦人科	Assisted reproductive technology-associated risk factors for retained products of conception.	Fertil Steril. 29 Nov 2023:S0015-0282(23)02024-1. doi:10.1016/j.fertnstert.2023.11.028. Epub ahead of print.	Original Article
29	Koyanagi T	産婦人科	Association between financial toxicity and health-related quality of life of patients with gynecologic cancer.	Int J Clin Oncol 2023;28:454-467.	Original Article
30	Jwa SC	産婦人科	Assisted reproductive technology in Japan: A summary report for 2020 by the ethics Committee of the Japan Society of obstetrics and gynecology.	Reprod Med Biol. 2023;22:e12494.	Original Article
31	Jwa SC	産婦人科	Assisted reproductive technology in Japan: A summary report for 2021 by the Ethics Committee of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology.	Reprod Med Biol. 2024;23:e12552.	Original Article
32	Fujiwara H	産婦人科	H3K27me3 deficiency in dedifferentiated carcinoma and carcinosarcoma of the endometrium.	Virchows Arch. 2023; 483:885-890.	Original Article
33	Fujiwara H	産婦人科	Expression of glypican-3, SALL4, and CD34 in undifferentiated endometrial carcinomas.	Pathology. 2023; S0031-3025(23)00253-2. doi: 10.1016/j.pathol.2023.08.010. Epub ahead of print.	Original Article
34	Fujiwara H	産婦人科	Low-grade appendiceal mucinous neoplasm encountered during risk-reducing salpingo-oophorectomy: A case of laparoscopic surgery.	J Obstet Gynaecol Res. 2023; 49:2975-2978.	Case report
35	Fujiwara H	産婦人科	Impact of lower co-payments on risk-reducing salpingo-oophorectomy and BRCA testing in Japan	Arch Public Health. 2023;81:32	Original Article
36	Koyanagi T, Saga Y, Takahashi Y,	産婦人科	The role of non-genomic actions of progesterone and its membrane receptor agonist in ovarian cancer cell death.	Cancer Rep (Hoboken). 27 Nov 2023:e1934. doi: 10.1002/cnr2.1934.	Original Article
37	Matsubara S, Takahashi H	産婦人科	Impact of maternal late hospital arrival on adverse outcome of offspring affected by placental abruption: A regional multicenter nested case-control study in Japan"	J Obstet Gynaecol Res. 2023;49:1633-1634.	Letter
38	Matsubara S, Takahashi H	産婦人科	Publishing a paper during residency for specialists: How should we deal with it?	JMA J. 2023;6:337-338.	Letter
39	Matsubara S, Takahashi H	産婦人科	the editor: Comparison of H-Hayman uterine compression suture with conventional vertical sutures – A cross-sectional study in a tertiary center.	Int J Gynaecol Obstet. 2023;163:335-337.	Letter

40	Matsubara S, Takahashi H	産婦人科	Uterus preserving surgery for placenta accreta spectrum: Some clarifications.	Ginekol Pol. 2023;94:865-866.	Letter
41	Matsubara S, Takahashi H	産婦人科	Training surgeons for placenta accreta spectrum: How should hysterectomy be distributed among trainees?	J Obstet Gynaecol Res. 2023;49:1880-1881.	Letter
42	Matsubara S, Takei Y	産婦人科	Placenta accreta spectrum: Reconsidering the grading system solely based on invasion depth.	J Obstet Gynaecol Res. 2023;49:356-357.	Original Article
43	Matsubara S, Takei Y	産婦人科	Perineal suture to maintain pessary for pelvic organ prolapse: Some questions.	Arch Gynecol Obstet. 2023;308:1909-1910.	Original Article
44	Takei Y	産婦人科	Neoadjuvant chemotherapy followed by interval debulking surgery for advanced epithelial ovarian cancer: GOTIC-019 study.	Int J Clin Oncol. 2023;28:804-815.	Original Article
45	Ogoyama M, Yamamoto K, Suzuki H	産婦人科	Uterine Rupture With Placenta Percreta Following Multiple Adenomyomectomies.	Cureus 15: e34852. doi: 10.7759/cureus.34852.	Case report
46	Ohkuchi A, Takahashi K, Hirashima C	産婦人科	Automated electrochemiluminescence immunoassay for serum PIGF levels in women with singleton pregnancy at 9-13 weeks of gestation predicts preterm preeclampsia: a retrospective cohort study.	Hypertens Res. 22 Dec 2023. doi: 10.1038/s41440-023-01534-1.	Original Article
47	Takei Y	産婦人科	Human papillomavirus vaccine impact on invasive cervical cancer in Japan: Preliminary results from cancer statistics and the MINT study.	Cancer Sci. 2023;114:4426-4432.	Original Article
48	Takei Y	産婦人科	Poor treatment outcomes of locally advanced cervical adenocarcinoma of human papilloma virus independent type, represented by gastric type adenocarcinoma: A multi-center retrospective study	Cancers. 2023;15:1730.	Original Article
49	Takahashi Y, Matsubara S, Fujiwara H.	産婦人科	Ovarian vein thrombosis after hysterectomy with bilateral salpingectomy: With versus without oophorectomy.	Taiwan J Obstet Gynecol. 2023;62:619-620.	Original Article
50	Takahashi Y, Matsubara S, Tamura K	産婦人科	Ovarian vein thrombosis after bilateral adnexectomy in a symptomatic patient with concomitant pulmonary embolism: A case report.	Taiwan J Obstet Gynecol. 2023;62:559-561.	Case report
51	Takahashi Y, Taguchi M, Tamura K	産婦人科	Increase in creatinine levels associated with niraparib maintenance therapy in ovarian cancer.	J Obstet Gynaecol Res. doi: 10.1111/jog.15865.	Original Article
52	Takahashi Y, Fujiwara H, Yamamoto K,	産婦人科	Prevention of symptomatic pulmonary embolism for gynecologic malignancies with preoperative asymptomatic venous thromboembolism: GOTIC-VTE trial.	J Gynecol Oncol. doi: 10.3802/jgo.2024.35.e37	Original Article

53	Jwa SC	産婦人科	Clinical outcomes of personalized blastocyst embryo transfer after endometrial receptivity analysis: A multicenter, retrospective cohort study.	Reprod Med Biol. 2023;22:e12550.	Original Article
54	Tamura K	産婦人科	Activated neutrophils inhibit chemotactic migration of activated T lymphocytes to CXCL11 by multiple mechanisms	Cell Immunol. 2023;384:104663.	Original Article
55	Tamura K, Takahashi H, Tatsuya S,	産婦人科	Late-Onset Ovarian Bleeding After Transvaginal Oocyte Retrieval in a Patient With Suspected Hereditary Hemorrhagic Telangiectasia.	Cureus. 2023;15:e45657.	Case report
56	Koyanagi T	産婦人科	Immune Checkpoint Inhibitor-induced Pancreatitis with Pancreatic Enlargement Mimicking Autoimmune Pancreatitis: A Case Report and Review of the Literature.	Intern Med. 2 Aug 2023. doi: 10.2169/internalmedicine.1943-23.	Review
57	Wada Y, Takahashi H.	産婦人科	Response letter to "Adhesion barriers and intraperitoneal or uterine infections after cesarean section: A retrospective cohort study."	Surgery. 2023;174:131-132.	Review
58	Wada Y, Takahashi H	産婦人科	Maternal outcomes of placental abruption with intrauterine fetal death and delivery routes: A nationwide observational study.	Acta Obstet Gynecol Scand. 2023;102:708-715.	Review
59	Wada Y, Takahashi H, Ogoyama M	産婦人科	Uterine cervical conisation and chorioamnionitis: A nationwide observational study	BJOG. 13 Nov 2023. doi: 10.1111/1471-0528.17718.	Original Article
60	Taneichi A, Fujiwara H	産婦人科	Stroke in Patients With Common Noncancerous Gynecologic Diseases: A Multicenter Study in Japan.	Neurol Clin Pract. 2023;13:e200165.	Original Article
61	平田雄大	移植外科	Efficacy of Subcutaneous Immunoglobulin in the Postoperative Management of Pediatric Living Donor Liver Transplantation		Case report
62	堀内俊男	移植外科	小児生体肝移植のT細胞性拒絶反応の周術期リスク因子について Perioperative Risk Factors for T cell-mediated rejection of Pediatric Living Liver Transplantation.		Case report
63	石田隆志	移植外科	肝細胞癌患者における術前オステオペニアの影響.	日本消化器外科学会雑誌(0386-9768)56巻2号. Page523(2023.11)	Original Article
64	笠原尚哉	消化器一般移植外科	食事性ポリアミンによる短腸症候群ラットモデルにおける消化・吸収能の改善.	移植(0578-7947)58巻2号 Page160-161. (2023.11.)	Original Article
65	Nishimura T, Takahashi T, Takeshita K, et al	整形外科	Comparison of Electrothermal Ablation and Electrolyte Plasmalization Devices Based on the Mechanical Properties of Anterior Cruciate Ligament Femoral Attachment Following Partial Debridement	A Biomechanical Study Using a Porcine Model. Cureus. 2023 Oct 29;15(10):e47911.	Original Article

66	Sasanuma H, Iijima Y, Saito T, et al.	整形外科	Efficacy of fracture stem in reverse shoulder arthroplasty for 3- or 4-part proximal humerus fractures.	J Orthop Sci. 2023 Nov;28(6):1266-1273.	Original Article
67	Akahane K, Hatanaka S, Kawahara M, et al.	放射線治療科	Recurrence Pattern, Treatment Modalities, and Prognostic Factors After Definitive Chemoradiotherapy for Recurrent Esophageal Cancer.	J Gastrointest Cancer. 2024 Jun;55(2):809-819.	Original Article
68	Chiba E, Sato N, Kimura Y, et al.	画像診断科	Double inversion recovery MRI of subcortical band heterotopia and its variations.	J Neuroimaging. 2023 Sep-Oct;33(5):731-736.	Original Article
69	Endo M, Fukuda Y, Okada K, et al.	放射線治療科	Abscopal Effect after Stereotactic Body Radiotherapy with Nivolumab for Lung Metastasis of Head and Neck Cancer: A Case Report.	Case Rep Oncol. 2023;16(1):1345-1352.	Case report
70	Endo M, Fukuda Y, Okada K, et al.	放射線治療科	Clinical Outcomes of Radiotherapy for Stage 1 Glottic Carcinoma: Comparing Accelerated Hyperfractionation and Once-daily Fractionation.	In Vivo. 2023;37(5):2320-2326.	Original Article
71	Fujii H, Fujita A, Nishino H, et al.	画像診断科	Magnetic Resonance Imaging Findings of Lymphoepithelial Carcinoma of the Submandibular Gland: A Case Report.	Cureus. 2023;15(12):e49939.	Case report
72	Fujii H, Matsuki M, Hamakawa T, et al.	画像診断科	Choroid plexus and pituitary gland hemochromatosis induced by transfusional iron overload: Two case report.	Radiol Case Rep. 2024;19(5):1666-1670.	Case report
73	Fujii H, Noguchi T, Miura T, et al.	画像診断科	Magnetic resonance imaging findings of sclerosing microcystic adenocarcinoma: A case report and review of the literature.	Radiol Case Rep. 2023 Aug 3;18(10):3626-3631.	Case report
74	Fujii N, Fujii H, Matsuki M, et al.	画像診断科	Optic pathway involvement in the posterior reversible encephalopathy syndrome: A case report and review of the literature.	Radiol Case Rep. 2023;18(10):3769-3772.	Case report
75	Ito N, Fujii H, Kuroda R, et al.	画像診断科	Intradural Chordoma Mimicking an Epidermoid Cyst on Imaging.	Cureus. 2023;15(6):e40610.	Case report
76	Kanzawa J, Matsuki M, Kano S, et al.	画像診断科	Massive true thymic hyperplasia with osseous metaplasia.	Radiol Case Rep. 2023;18(6):2307-2310.	Case report
77	Kashiwakura Y, Endo K, Ugajin A, et al.	生化学講座病態生化学部門	Efficient gene transduction in pigs and macaques with the engineered AAV vector AAV.GT5 for hemophilia B gene therapy.	Mol Ther Methods Clin Dev. 2023;30:502-514.	Original Article
78	Kawasaki J, Mato N, Fujii H, et al.	呼吸器内科	Significance of persistent systemic support in the clinical course of delayed post-hypoxic leukoencephalopathy following severe coronavirus disease 2019.	Intern Med. 2024 Apr 15;63(8):1167-1172.	Case report
79	Kikuchi T, Hanaoka S, Nakao T, et al.	画像診断科	Impact of CT-Determined Low Kidney Volume on Renal Function Decline: A Propensity Score-Matched Analysis.	Insights Imaging. 2024 Apr 5;15(1):102.	Original Article
80	Kikuchi T, Hanaoka S, Nakao T, et al.	画像診断科	Relationship between Thyroid CT Density, Volume, and Future TSH Elevation: A 5-Year Follow-Up Study.	Life (Basel). 2023;13(12):2303.	Original Article

81	Kikuchi T, Hanaoka S, Nakao T, et al.	画像診断科	Significance of FDG-PET standardized uptake values in predicting thyroid disease.	Eur Thyroid J. 2023;12(1):e220165.	Original Article
82	Kikuchi T, Hanaoka S, Nakao T, et al.	画像診断科	Synthesis of Hybrid Data Consisting of Chest Radiographs and Tabular Clinical Records Using Dual Generative Models for COVID-19 Positive Cases.	J Imaging Inform Med. 2024 Jun;37(3):1217-1227.	Original Article
83	Kojima S, Matsuki M, Fujii N, et al.	画像診断科	Pulmonary Vein Stenosis after Catheter Ablation for Atrial Fibrillation: An Early Diagnosis Using Unenhanced Computed Tomography.	Intern Med. 2024 May 15;63(10):1443-1449.	Original Article
84	Kojima S, Matsuki M, Fujii N, et al.	画像診断科	Response to Letter_IM-2289-23-C.R2: Pulmonary Vein Stenosis after Catheter Ablation for Atrial Fibrillation: An Early Diagnosis Using Unenhanced Computed Tomography.	Intern Med. 2024 Feb 26.	Letter
85	Manabe O, Jinnouchi H, Aikawa T, et al.	画像診断科	Ischaemia in the right ventricle and left ventricle, and rheumatoid myalgia incidentally found in a lung cancer patient treated with immune checkpoint inhibitors: a case report with 18F-fluorodeoxyglucose-positron emission tomography/computed tomography imaging.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2023;25(1):e58.	Case report
86	Masuoka S, Hiyama T, Kuno H, et al.	画像診断科	Computed tomography findings of hepatobiliary systems in patients with immune checkpoint inhibitor-induced liver injury.	Abdom Radiol (NY). 2023 Sep;48(9):3012-3021.	Case report
87	Masuoka S, Hiyama T, Kuno H, et al.	画像診断科	Imaging Approach for Cervical Lymph Node Metastases from Unknown Primary Tumor.	Radiographics. 2023 Mar;43(3):e220071.	Original Article
88	Matsumoto A, Kano S, Kobayashi N, et al.	分子病態治療研究センター心血管・遺伝学研究部	Unfavorable switching of skewed X chromosome inactivation leads to Menkes disease in a female infant.	Sci Rep. 2024;14(1):440.	Case report
89	Okada K, Takahashi S, Endo M, et al.	放射線治療科	The efficacy of radiation therapy using the Quad Shot regimen in cutaneous metastasis from parotid gland cancer. A case report.	Clin Case Rep. 2023;11(7):e7687.	Case report
90	Otake Y, Ugajin A, Takahashi H, et al.	画像診断科	Prediction of antenatal bleeding and preterm deliveries using placental magnetic resonance imaging in patients with placenta previa.	Jpn J Radiol. 2024 Jun;42(6):630-638.	Original Article
91	Takahashi S, Endo M, Nagatomo T, et al.	放射線治療科	Successful Preoperative QUAD SHOT for Bulky Parotid Carcinoma: Potential Preoperative Ultra-Hypofractionated Radiotherapy for Conversion Surgery.	Case Rep Oncol. 2023;16(1):218-226.	Case report
92	Omata Y, Tachibana H, Aizaki Y, et al.	アレルギー・リウマチ科	Essentiality of Nfatc1 short isoform in osteoclast differentiation and its self-regulation.	Sci Rep. 2023 Nov; 13: 18797	Original Article
93	Shibuya K, Ebihara K, Takahashi M, et al.	自治医科大学附属病院内分泌代謝科	A Novel Missense MEN1 Mutation in a Sporadic Case of Multiple Endocrine Neoplasia Type 1 Complicated with Papillary Thyroid Carcinoma.	JMA J. 2023 Apr 14;6(2):216-219.	Original Article
94	Sakurai M, Wakabayashi T, Kondo Y, et al.	自治医科大学附属病院内分泌代謝科	A case of vasoactive intestinal peptide-secreting tumor (VIPoma) arising from MEN1 inactivation which recurred 15 years after the initial resection.	Endocr J. 2023 Jun 28;70(6):573-579.	Original Article

95	Takahashi M, Okazaki H, Tada H, et al	自治医科大学附属病院内分泌代謝科	A case of cerebrotendinous xanthomatosis with massive xanthomas but without a considerable increase in serum cholestanol levels.	J Clin Lipidol. 2023 Nov-Dec;17(6):834-838.	Original Article
96	Kusuda M, Nakasone H, Yoshimura K, Okada Y, Tamaki M, Matsuoka A, Ishikawa T, Meno T, Nakamura Y, Kawamura M, Takeshita J, Kawamura S, Yoshino N, Misaki Y, Gomyo A, Tanihara A, Kimura SI, Kako S, Kanda Y.	血液科	Gene expression and TCR amino acid sequences selected by HLA-A02:01-restricted CTLs specific to HTLV-1 in ATL patients	Br J Haematol. 2023 Aug;202(3):578-588.	Original Article
97	Chihiro Yamamoto, Daisuke Minakata, Daizo Yokoyama, et al.	血液科	Cost-Effectiveness of Anti-BCMA Chimeric Antigen Receptor T Cell Therapy in Relapsed/Refractory Multiple Myeloma	Transplant Cell Ther. 2024 Jan;30(1):118.e1-118.e15. (オンライン)	Original Article
98	Sho Nishida, Takehiro Ohyama, Kyoko Minamisono, Hajime Sasaki and Daiki Iwami	腎臓外科	Retroperitoneoscopic Donor Nephrectomy on the Right Side Provides Equivalent Outcomes and Donor Safety to That on the Left Side,	Transplant Proc. 2023 May;55(4):744-747. doi: 10.1016/j.transproceed.2023.04.030. Epub 2023 May 24.	Original Article
99	Sasaki H, Hasegawa K, Harada H, Takamoto D, Takada Y, Hirano T, Tanabe T, Tanaka H and Miura M	腎臓外科	Comparison of humoral response in kidney transplant recipients and donors and healthy volunteers following second dose of SARS-CoV-2 mRNA vaccine	Transplant Proc. 2023 Feb 27;S0041-1345(23)00071-4. doi:10.1016/j.transproceed.2023.02.018.	Original Article
100	Sasaki H, Hirose T, Oura T, Ma D, Otsuka R, Lassiter G, Susan R P, Reeves P M, Karadagi A, Tomosugi T, Dehnadi A, Matsunami M	腎臓外科	Selective Bcl-2 inhibition induces apoptosis of hematopoietic stem cells and lymphocytes to promote hematopoietic chimerism and allograft tolerance without myelosuppression.	Sci Transl Med. 2023 Apr 5;15(690):eadd5318. doi: 10.1126/scitranslmed.add5318. Epub 2023 Apr 5.	Original Article
101	Sasaki H, Tanabe T, Tsuji T, Hotta K	腎臓外科	Mechanism and treatment for chronic antibody-mediated rejection in kidney transplant recipients	Int J Urol. 2023 Jun 12. doi: 10.1111/iju.15197.	Original Article
102	Ohyama T, Sasaki H, Minamisono K, Nishida S, Iwami D	腎臓外科	Orthotopic kidney transplantation from a living renal donor after interventional therapy for bilateral arteriosclerosis obliterans of the iliac arteries: A case report and literature review	IJU Case Rep. 2023 Sep 14;6(6):428-432. doi: 10.1002/iju.12640.	Case report
103	Satoh, M., Nakajima, T., Ohtani, K., Konno, T., Tetsuka, M., & Kawai, K	脳神経外科	Dual-floor Burr Hole Technique Optimized for Modern Burr Hole Caps with an Internal Electrode Locking Mechanism	Neurologia medico-chirurgica, 63(9) 432-435, 2023.	Original Article
104	Kaneko N, Beaman C, Imahori T, Takayanagi A, Saber H, Tateshima S	脳神経外科	In vitro comparison of manual and robotic endovascular thrombectomy for acute ischemic stroke	Interv Neuroradiol. 2023 Oct 8;15910199231206315. doi: 10.1177/15910199231206315.	Original Article
105	Kaneko N, Rootman DB, Takayanagi A, Goldberg R, Duckwiler GR, Tateshima S	脳神経外科	Intermittent Orbital Pain due to Hemodynamic Collapse of an Orbital Varix: A Case Report	Case Rep Ophthalmol. 2023 Jan-Dec;14(1):353-357. doi: 10.1159/000531601	Case report
106	國井尚人	脳神経外科	【脳神経外科医が知っておきたい〜てんかんのすべて】脳神経外科医が知っておきたい外科的手法による局在診断 ヒト神経科学への頭蓋内電極の貢献	Neurological Surgery 51(1) 90-93, 2023	Original Article
107	大谷啓介	脳神経外科	【脳神経外科医が知っておきたい〜てんかんのすべて】脳神経外科医が知っておきたい〜てんかん指導 自動車運転と福祉制度	Neurological Surgery: 51(1) 146-155, 2023	Original Article

108	五味玲	脳神経外科	神経膠腫系 Pediatric-type diffuse high-grade gliomas	Clinical Neuroscience, 501-504, 2023	Original Article
109	小河原 昇,五味 玲,小熊 啓,白井 克,福田 友,福嶋 敬,平戸 純,市村 幸,川合 謙介	脳神経外科	小児ラブドイド髄膜腫の1例	小児の脳神経 48: 362-367, 2023	Original Article
110	Kumagai, S., Nakajima, T., Shimazaki, K., Kakiuchi, T., Harada, N., Ohba, H., Onuki, Y., Takino, N., Ito, M., Sato, M., Nakamura, S., Osaka, H., Yamagata, T., Kawai, K	脳神経外科	Early distribution of 18 F-labeled AAV9 vectors in the cerebrospinal fluid after intracerebroventricular or intracisternal magna infusion in non-human primates.	J Gene Med, 25(1), e3457.,2023.	Original Article
111	Kumagai, S., Shiramatsu, T. I., Matsumura, A., Ishishita, Y., Ibayashi, K., Onuki, Y., Kawai, K., Takahashi, H.	脳神経外科	Frequency-specific modulation of oscillatory activity in the rat auditory cortex by vagus nerve stimulation	Brain Stimul, 16(5), 1476-1485.2023.	Original Article
112	Fujita K, Arai R, Shoji S,	呼吸器内科	Detection of multiple druggable mutations of lung cancer from cytology specimens by MINTs: An advanced medicine A trial.	Cancer Sci. 114(8): 3342-3351, 2023.	Original Article
113	Okada M, Yoshida N, Kashida H, et al.	消化器内科学部門	Comparison of blue laser imaging and light-emitting diode-blue light imaging for the characterization of colorectal polyps using the Japan narrow-band imaging expert team classification: The LASEREO and ELUXEO COLonosopic study	DEN Open 2024 Vol. 4 Issue 1 Pages e245	Original Article
114	Hashimoto K, Nemoto D, Hayashi Y, et al.	消化器内科学部門	Novel endoscopic stricturoplasty with longitudinal incisions and hot biopsy forceps removal for a rectal refractory stricture in Crohn's disease	Endosc Int Open 2024 Vol. 12 Issue 1 Pages E97-E98	Case report
115	Yamamoto H, Sakamoto H, Kumagai H, et al.	消化器内科学部門	Clinical Guidelines for Diagnosis and Management of Peutz-Jeghers Syndrome in Children and Adults	Digestion 2023 Vol. 104 Issue 5 Pages 335-347	Review
116	Funayama Y, Oguro K, Sakamoto H, et al.	消化器内科学部門	Repeat bidirectional double-balloon enteroscopy 1 year later may be proper in Peutz-Jeghers patients with difficult-to-reach polyps	Endosc Int Open 2023 Vol. 11 Issue 12 Pages E1110-E1115	Original Article
117	Dashnyam U, Nagayama M, Yano T, et al.	消化器内科学部門	Maintenance of complete mucosal healing is associated with avoiding restenosis after endoscopic balloon dilation of Crohn's disease-related small intestinal strictures	DEN Open 2023 Vol. 3 Issue 1 Pages e239	Original Article
118	菅谷 彰	心臓血管外科	Aerococcus urinae infective endocarditis in a healthy young man: a case report.	Gen Thorac Cardiovasc Surg Cases 2023;2:56	Case report
119	Kubota K, Imai Y, Okuyama T, et al.	循環器内科	Dramatically Improved Severe Pulmonary Arterial Hypertension Caused by Qing-Dai (Chinese Herbal Drug) for Ulcerative Colitis	Int Heart J. 2023;64(2):316-320.	Case report

120	Hoshide S, Mogi M, Kario K.	循環器内科	Dramatically Improved Severe Pulmonary Arterial Hypertension Caused by Qing-Dai (Chinese Herbal Drug) for Ulcerative Colitis	Hypertens Res. 2023 Apr;46(4):815-816.	Others
121	Oba Y, Hoshide S, Higaki A, et al.	循環器内科	Unusual Case of Adult-Onset Congestive Heart Failure Due to Long-Lasting Cardiac Volume Overload Caused by Spinal Epidural Arteriovenous Fistulas	Circ Rep. 2023 Feb 22;5(4):162-163.	Case report
122	Kario K, Rakugi H, Yarimizu D, et al.	循環器内科	Twenty-Four-Hour Blood Pressure-Lowering Efficacy of Sacubitril/Valsartan Versus Olmesartan in Japanese Patients With Essential Hypertension Based on Nocturnal Blood Pressure Dipping Status: A Post Hoc Analysis of Data From a Randomized, Double-Blind Multicenter Study	J Am Heart Assoc. 2023 Apr 18;12(8):e027612.	Original Article
123	Kario K, Tomitani N, Fujiwara T, et al.	循環器内科	Peak home blood pressure as an earlier and strong novel risk factor for stroke: the practitioner-based nationwide J-HOP study extended	Hypertens Res. 2023 Sep;46(9):2113-2123.	Original Article
124	Narita K, Kario K.	循環器内科	Seasonal variation in blood pressure and its impact on target organ damage and cardiovascular disease incidence	Hypertens Res. 2023 Jul;46(7):1710-1711.	Others
125	Fujimura K, Karasawa T, Komada T, et al.	循環器内科	NLRP3 inflammasome-driven IL-1 β and IL-18 contribute to lipopolysaccharide-induced septic cardiomyopathy	J Mol Cell Cardiol. 2023 Jul;180:58-68.	Original Article
126	Kario K, Nishizawa M, Kato M, et al.	循環器内科	Nighttime home blood pressure lowering effect of esaxerenone in patients with uncontrolled nocturnal hypertension: the EARLY-NH study	Hypertens Res. 2023 Jul;46(7):1782-1794.	Original Article
127	Kario K, Hoshide S, Mogi M.	循環器内科	The new editorial board 2023 of Hypertension Research for global initiatives	Hypertens Res. 2023 Jul;46(7):1624-1635. doi: 10.1038/s41440-023-01296-w. Epub 2023 May 15.	Others
128	Kario K, Kai H, Nanto S, et al.	循環器内科	Anti-hypertensive medication adherence in the REQUIRE trial: post-hoc exploratory evaluation	Hypertens Res. 2023 Aug;46(8):2044-2047.	Original Article
129	Kario K, Hoshide S, Mogi M.	循環器内科	Topics 2023 in Hypertension Research leading to guidelines in Asia	Hypertens Res. 2023 Jun;46(6):1357-1362.	Others
130	Tomitani N, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Novel blood pressure monitoring methods: perspectives for achieving "perfect 24-h blood pressure management"	Hypertens Res. 2023 Aug;46(8):2051-2053.	Others
131	Kario K.	循環器内科	Evidence for the surge blood pressure resonance hypothesis as a trigger for cardiovascular disease events	Hypertens Res. 2023 Sep;46(9):2065-2069.	Others
132	Hoshide S, Mogi M, Kario K.	循環器内科	Sympathetic nervous activation and hypertension	Hypertens Res. 2023 Jul;46(7):1636-1637.	Others

133	Kario K, Hasebe N, Okumura K, et al.	循環器内科	Anticoagulant therapy and home blood pressure-associated risk for stroke/bleeding events in elderly patients with non-valvular atrial fibrillation: the sub-cohort study of ANAFIE registry	Hypertens Res. 2023 Dec;46(12):2575-2582.	Original Article
134	Kario K, Hoshide S, Mogi M, et al.	循環器内科	What impacts do the new ESH 2023 guidelines have on the management of hypertension in Japan?	Hypertens Res. 2023 Oct;46(10):2257-2261.	Others
135	Kamioka M, Makimoto H, Watanabe T, et al.	循環器内科	Unipolar-voltage-based evaluation of left atrial tissue properties and ablation outcome in patients with atrial fibrillation	Europace. 2023 Aug 2;25(9):eua240. doi: 10.1093/europace/eua240.	Original Article
136	Kario K, Ohishi M, Katsuya T, et al.	循環器内科	Rationale and design of a multicenter randomized study comparing the efficacy and safety of esaxerenone versus trichlormethiazide in patients with uncontrolled essential hypertension: EXCITE-HT study	J Clin Hypertens (Greenwich). 2023 Sep;25(9):861-867.	Original Article
137	Yokota A, Kabutoya T, Mitama T, et al.	循環器内科	Comparison of heart rate and cardiac output of VVI pacemaker settings in patients with atrial fibrillation with bradycardia	J Arrhythm. 2023 May 18;39(4):574-579.	Original Article
138	Morita E, Harada K, Saito S, et al.	循環器内科	High-Output Heart Failure Caused by Abdominal Aortic Aneurysm-Inferior Vena Cava Fistula Due to Blunt Trauma	Circ Rep. 2023 Jul 12;5(8):348-349. doi: 10.1253/circrep.CR-23-0046. eCollection 2023 Aug 10.	Case report
139	Kario K, Tomitani N, Wang TD, et al.	循環器内科	Home blood pressure-centered approach - from digital health to medical practice: HOPE Asia Network consensus statement 2023	Hypertens Res. 2023 Dec;46(12):2561-2574.	Review
140	Kario K.	循環器内科	Digital hypertension towards to the anticipation medicine	Hypertens Res. 2023 Nov;46(11):2503-2512.	Review
141	Harada K, Kario K.	循環器内科	Risk factors for atherosclerosis as direct causes of left atrial dysfunction independent of left atrial-left ventricular-arterial coupling	Hypertens Res. 2023 Nov;46(11):2545-2546.	Others
142	Morita E, Oba Y, Funayama H, et al.	循環器内科	A Case of Myocardial Infarction Caused by Spasm of the Right and Left Coronary Ostia and Discontinuation of Hyperthyroidism Treatment	Turk Kardiyol Dern Ars. 2023 Sep;51(6):427-428.	Case report
143	Narita K, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Comparison of Ambulatory and Home Blood Pressure Variability for Cardiovascular Prognosis and Biomarkers	Hypertension. 2023 Dec;80(12):2547-2555.	Original Article
144	Kario K, Tomitani N, Hoshide S, et al.	循環器内科	Different Home Blood Pressure Thresholds to Predict Perfect 24-Hour Ambulatory Blood Pressure Control in Treated Hypertension Based on an "All-in-One" Device	Hypertension. 2023 Nov;80(11):2464-2472.	Original Article
145	Hoshide S, Mogi M, Kario K.	循環器内科	How do we tackle nighttime blood pressure?	Hypertens Res. 2023 Oct;46(10):2262-2263.	Others

146	Kobayashi H, Funayama H, Shinohara H, et al.	循環器内科	Calcified nodule formation following fragmented sheet calcification during balloon angioplasty in a patient on hemodialysis	Coron Artery Dis. 2023 Nov 1;34(7):525-526.	Case report
147	Kubota K, Imai Y, Okuyama T, et al.	循環器内科	Response to the Letter by Frumkin Regarding the Article, "Dramatically Improved Severe Pulmonary Arterial Hypertension Caused by Qing-Dai (Chinese Herbal Drug) for Ulcerative Colitis"	Int Heart J. 2023;64(6):1167.	Others
148	Kario K, Tomitani N, Hoshide S, et al.	循環器内科	Agreement Between Guideline Thresholds Using an "All-in-One" Device to Measure Office, Home, and Ambulatory Blood Pressures	J Am Heart Assoc. 2023 Dec 5;12(23):e030992. doi: 10.1161/JAHA.123.030992. Epub 2023 Dec 1.	Original Article
149	Kario K, Hoshide S, Mogi M.	循環器内科	Five special focuses of Hypertension Research: digital hypertension, home blood pressure-centered approach, renal denervation, Asians, for guidelines	Hypertens Res. 2023 Dec;46(12):2557-2560.	Others
150	Narita K, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Polypill Therapy for Cardiovascular Disease Prevention and Combination Medication Therapy for Hypertension Management	J Clin Med. 2023 Nov 22;12(23):7226. doi: 10.3390/jcm12237226.	Review
151	Mizuno H, Choi E, Kario K, et al.	循環器内科	Diagnostic Accuracy of Office Blood Pressure Measurement and Home Blood Pressure Monitoring for Hypertension Screening Among Adults: Results From the IDH Study	J Am Heart Assoc. 2023 Dec 19;12(24):e030150. doi: 10.1161/JAHA.123.030150. Epub 2023 Dec 12.	Original Article
152	Hoshide S, Mogi M, Kario K.	循環器内科	Intriguing review and topics in this month of Hypertension Research	Hypertens Res. 2024 Feb;47(2):253-254.	Others
153	Tomitani N, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Could wristwatch-type wearable oscillometric blood pressure monitoring be a third option for out-of-office blood pressure monitoring?	Hypertens Res. 2024 Apr;47(4):1078-1080.	Others
154	Kario K, Okura A, Hoshide S, et al.	循環器内科	Could wristwatch-type wearable oscillometric blood pressure monitoring be a third option for out-of-office blood pressure monitoring?	Hypertens Res. 2024 May;47(5):1099-1102.	Others
155	Watanabe T, Hoshide S, Hachiya H, et al.	循環器内科	Impact of nocturnal blood pressure dipping on recurrence of atrial fibrillation after pulmonary vein isolation	Hypertens Res. 2024 Jun;47(6):1688-1696.	Original Article
156	Kimura,Y.,Ohzawa,H., Miyato,H.,et al.	消化器一般移植外科	Intraperitoneal transfer of microRNA-29b-containing small extracellular vesicles can suppress peritoneal metastases of gastric cancer.	Cancer Sci.114(7):2939-2950,2023.	Original Article
157	Naoki D.,Horie,H.,Sadatomo,A., et al.	消化器一般移植外科	The effect of staple height and rectal-wall thickness on anastomotic leakage after laparoscopic low anterior resection.	Asian J Surg.46(4):1577-1582,2023.	Original Article
158	Takayama,N., Sasanuma,H., Rifu,K.,et al	消化器一般移植外科	Acoustic radiation force impulse-induced lung hemorrhage:investigating the relationship with peak rarefactional pressure amplitude and mechanical index in rabbits.	J Med Ultrason.50(2):143-150,2023.	Original Article
~					

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 1. 自治医科大学における人を対象とする生命科学・医学系研究に関する規程 2. 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理審査委員会手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年15回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 1. 学校法人自治医科大学利益相反委員会内規 2. 学校法人自治医科大学利益相反マネジメント・ポリシー 3. 学校法人自治医科大学における人を対象とする医学系研究の実施に係る利益相反ポリシー 4. 学校法人自治医科大学における臨床研究等に係る利益相反についての手順書	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
<p>・研修の主な内容</p> <p>令和5年7月4日（火）に自治医科大学研究倫理講習会として集合形式で開催し、後日、totaraを用いてweb形式の動画視聴の講習を実施した。</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・新専門医制度の19の基本領域すべてにおいて専門研修プログラムを整備しており、全領域で基本領域の専門医を取得することができる。
- ・サブスペシャリティ領域について各領域で専門研修プログラムを整備しており、多種のサブスペシャリティ研修と専門医の取得が可能である。
- ・基本領域、サブスペシャリティ領域の円滑な研修のため、卒後臨床研修センターを中心に院内に情報共有・通知を行っている。
- ・各基本領域において初期研修医から後期研修医を主な対象とし、最新の医学的知識習得を目的としたセミナーを定期的で開催している。
- ・メディカルシミュレーションセンターを併設しており、模型を用いた内視鏡、超音波診断、外科手術の臨床手技習得のためのトレーニングを24時間行うことが可能である。
- ・併設する附属図書館より最新の文献収集、電子教科書の利用などを24時間行うことができる。
- ・主要な派遣先の病院において、一定の資格（経験年数、業績、専門医・指導医の有無）を有する指導医を臨床教授に任用し（地域臨床教育センター）、附属病院と連携しながら後期研修の指導を行っている。
- ・社会人大学院制度により専門研修と並行し研究を行い医学博士を取得することが可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	217 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松村 正巳	内科（総合診療内科）	科長	38年	
長田 太助	内科（腎臓）	科長	32年	
神田 善伸	内科（血液）	科長	33年	
矢作 直也	内科（内分泌代謝）	科長	30年	
大澤 英之	内科（臨床腫瘍）	科長	26年	
畠山 修司	内科（感染症）	科長	28年	
丹波 嘉一郎	内科（緩和ケア）	科長	40年	
荻尾 七臣	循環器科	科長	37年	
山本 博徳	消化器科	科長	40年	
前門戸 任	呼吸器科	科長	35年	
藤本 茂	神経内科	科長	30年	
佐藤 浩二郎	アレルギー科	科長	29年	
佐藤 浩二郎	リウマチ科	科長	29年	
小宮根 真弓	皮膚科	科長	36年	
森 壘	画像診断科	科長	27年	
白井 克幸	放射線治療科	科長	21年	
松木 充	小児画像診断部	科長	33年	
須田 史朗	精神科	科長	28年	
柳橋 達彦	精神科 (子どもの心の診療科)	科長	22年	
田島 敏広	小児科	科長	38年	

山口 博紀	外科（消化器）	科長	31年	
岩見 大基	外科（腎臓）	科長	24年	
佐久間 康成	外科（移植）	科長	32年	
佐久間 康成	外科（小児移植）	科長	32年	
北山 丈二	外科（乳腺）	科長	40年	
川人 宏次	心臓血管外科	科長	38年	
岡 徳彦	心臓血管外科（小児・先天性心臓血管外科）	科長	27年	
坪地 宏嘉	呼吸器外科	科長	29年	
素輪 善弘	形成外科	科長	21年	
吉村 浩太郎	形成外科 （小児形成外科）	科長	39年	
素輪 善弘	美容外科	科長	21年	
照井 慶太	小児外科	科長	26年	
國井 尚人	脳神経外科	科長	21年	
五味 玲	脳神経外科 （小児脳神経外科）	科長	40年	
竹下 克志	整形外科	科長	37年	
渡邊 英明	整形外科 （小児整形外科）	科長	31年	
藤原 寛行	産科	科長	34年	
藤原 寛行	婦人科	科長	34年	
藤村 哲也	泌尿器科	科長	29年	
守屋 仁彦	泌尿器科 （小児泌尿器科）	科長	33年	
伊藤 真人	耳鼻咽喉科	科長	37年	
伊藤 真人	耳鼻咽喉科 （小児耳鼻咽喉科）	科長	37年	
蕪城 俊克	眼科	科長	32年	
竹内 護	麻酔科	科長	39年	
竹内 護	小児手術・集中治療部	科長	39年	
間藤 卓	救急科	科長	37年	
森田 光哉	リハビリテーション科	科長	38年	
渡邊 英明	小児リハビリテーション部	科長	31年	
福嶋 敬宜	病理診断科	科長	34年	
野口 忠秀	歯科口腔外科	科長	34年	
野口 忠秀	歯科口腔外科 （小児歯科口腔外科）	科長	34年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
回答なし
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
回答なし
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
回答なし

(注)1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注)2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 川合 謙介	
管理担当者氏名	病院事務部長 平寄 正俊	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	項 規則第二十一条の三第二項に掲げる事	病院日誌	<ul style="list-style-type: none"> 電子カルテシステムサーバー 診療情報管理室 各診療科 	平成18年度より電子カルテによる運用を行っている。電子カルテ導入前の記録については、診療情報管理室で管理している。診療録等の持ち出しについては、原則禁止としている。やむを得ず持ち出す場合は、別途規程に定めている。（『自治医科大学附属病院の患者等の個人情報保護に関する規程』、『自治医科大学附属病院情報システム利用規程』等）
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	三 規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	PCまたは紙媒体で保管
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	掲げる事項	規則第一条の十一第一項に	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質向上・安全推進センター
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質向上・安全推進センター
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質向上・安全推進センター
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質向上・安全推進センター	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第四号	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第五号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第六号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第八号	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療の質向上・安全推進センター
	第九号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療の質向上・安全推進センター
	第十号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	用度課及び臨床工学部
第十一号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療の質向上・安全推進センター	

PCまたは紙媒体で保管

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課及び医療の質向上・安全推進センター
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療の質向上・安全推進センター
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療の質向上・安全推進センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療の質向上・安全推進センター
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療の質向上・安全推進センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療の質向上・安全推進センター
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療の質向上・安全推進センター
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療の質向上・安全推進センター
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療の質向上・安全推進センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療の質向上・安全推進センター
		職員研修の実施状況	医療の質向上・安全推進センター、感染制御部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 川合 謙介
閲覧担当者氏名	病院事務部長 平寄 正俊
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室
閲覧の手続の概要 ・申請内容により個別対応	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理に関する基本的な考え方 ・ 医療の質向上・安全推進委員その他院内組織に関する基本的事項 ・ 医療安全管理のための講習会・研修会に関する基本方針 ・ インシデント報告に関する基本方針 ・ 重大事故発生時の対応 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療事故及びインシデントの予防対策の検討及び推進に関すること ・ 発生した医療事故等の対応方法に関すること ・ 医療安全管理指針及びリスクマネジメントマニュアルの策定及び変更に関すること ・ 医療安全管理に関する職員研修の計画の策定、実施及び評価に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年19回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員対象医療安全講習会 ・ 新入職者対象医療安全講習会 ・ 研修医インシデントレポートについての演習 ・ 研修医対象ポンプ・危険薬研修 ・ 多職種合同医療安全研修会 ・ 新人看護師対象医療安全研修会 ・ 中心静脈カテーテル挿入技術認定研修会 ・ 研修医対象医療安全セミナー ・ 心肺蘇生研修 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会を開催（改善策などを周知教育する） ・ e-ラーニングにて確認のテストを実施 ・ ワーキンググループで検討（JT-MAC、CV、休薬、IC、気管切開） ・ 部会で検討（医薬品安全管理・医療機器安全管理） 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染対策に関する基本的な考え方 院内感染対策に関連する委員会に関する基本的事項 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針 感染症の発生状況の報告とそれに対する対応に関する基本方針 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病院長が積極的に感染対策に関わり、院内感染対策委員会、ICT、AST、感染制御部が中心となって、すべての職員に対して組織的な対応と教育・啓発活動をする。 院内感染対策委員会で検討した事項は病院長に諮問した上で日常業務化する。 感染制御部長はICT、ASTおよび感染制御部を統括する。 感染管理認定看護師は感染管理リンクスタッフ勉強会を主催、統括する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年51回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>全職員対象医療安全・感染対策合同講習会：年2回 【動画配信・e-learning受講】 全職員対象感染対策講習会：年2回 【集合型：1回／動画配信・e-learning受講：1回】 新入職員対象オリエンテーション（全職種向け：年1回／看護師向け：年3回） 新入臨床研修医向け実習（事前演習有）：年1回 中途採用者・復職者対象オリエンテーション 【動画配信・e-learning受講（常時）】 看護補助員向け中途採用者研修：依頼に基づき随時実施：14回 リンクスタッフ（所属部署の感染管理担当者）勉強会：年4回 部署別個別研修会：依頼に基づき随時実施：1回（おおり分教室） 第一種感染症医療機関個人防護具着脱訓練（主任看護師対象・1回ずつ）：年10回 N95マスク定量フィットテスト（主任看護師・看護スタッフ・臨床検査技師対象）：年10回 清掃委託業者・従業者向けの感染防止対策研修 （栃木ビル商事・クリーン工房・株式会社スキンヘルスケアに各1回ずつ）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>専従の臨床検査技師が、令和5年度より感染制御部に常駐するようになり、細菌検査システムにおいて、検査データ（微生物データ）を毎営業日確認し、状況を把握している。 また、耐性菌検出状況の集計・分析を行い、月例の院内感染対策委員会においてフィードバックしている。 すべての職員に配付した感染防止対策マニュアル（ポケット版）にアウトブレイク対応の手順が明記されている。また、「アウトブレイクの定義」を令和4年2月に新たに作成し院内感染対策指針、及び感染防止対策マニュアル（ポケット版）に掲載した。 電子カルテ上に、検査結果から経路別予防策の必要な患者に対する経路別のタグが、原則として自動的に掲載される。また、病棟毎の感染症マップでは、経路別予防策の必要な患者</p>	

が一覧できる。

医療従事者の針刺し切創・粘膜曝露について感染症科の協力を得て常時対応している。
独立した感染症科が組織横断的なコンサルテーション診療による適正抗菌療法を行っている。

抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を組織し、継続的に活動している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年50回以上
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 新人看護職員研修会オリエンテーション 薬剤部の活動について ・ 医療の質向上・安全推進センター（QSセンター）専従薬剤師による新人看護職員研修 危険薬について、医薬品の使用に関わる計算演習など ・ 新人看護師の薬剤部における実地研修 薬剤部の業務、役割について ・ レジデントオリエンテーション 薬の処方および麻薬の取り扱いについて、注射薬について（医療安全） ・ 病棟担当薬剤師による危険薬説明会（主に担当病棟の新人看護師対象） 特に注意の必要な危険薬、配属病棟で使用頻度の高い危険薬を中心とした、危険薬の取り扱い等について ・ 全職員対象の医療安全講習会 要管理医薬品の適切な管理について、投薬の安全確認など 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂 ・ 医薬品の安全使用のための業務手順書に基づくチェックリストの作成 ・ チェックリストによる実施状況の確認（手順書の遵守状況確認） ・ 院内巡視による医薬品の管理状況等安全使用に関わる状況の確認 ・ 私立医科大学病院医療安全相互ラウンドの実施 ・ 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施 ・ 未承認等の医薬品の使用状況の把握・周知 ・ 医薬品の安全使用にあたり重要な情報の収集・周知 ・ 院内で発生した副作用報告を薬剤部とQSセンターが連携して収集して薬剤部で一元管理し、収集した院内及び院外の副作用情報をDIニュースとして医師・看護師等に周知 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> 2023年度承認件数 ・ 国内未承認薬：32件 <ul style="list-style-type: none"> 海外承認：Omegaven、レトロビルシロップ・静注用、ジドブジンシロップなど 院内製剤：ベクロメタゾン散・カプセル、セレン内服液 眼科用エチレンジアミン四酢酸（EDTA）液、ヒスチジン銅注射液など その他：丸山ワクチン、ソイポリア ・ 禁忌薬の使用：5件 	

併用禁忌薬剤の使用

血栓症の既往のある患者への不妊治療のため女性ホルモン製剤の投与
など

・ 適応外使用：139件

静注用KCL製剤の高濃度での使用

免疫グロブリン製剤の免疫性神経疾患への使用

抗がん剤の適応・用法用量の承認外での使用

集中治療領域における深鎮静へのラボナール注射用等麻酔薬の使用

小児適応の無い製剤の小児への使用（エゼチミブ錠、コララン錠など）

など

・ その他の改善のための方策の主な内容：

・ 医療の質向上・安全推進センター（QSセンター）への専従薬剤師配置によるQSセンターと薬剤部の連携

・ 医薬品安全管理責任者（医師、薬剤部長）及び医薬品安全管理副責任者（薬剤師）はQSセンターと兼務

・ PMDAメディナビおよび日本医療機能評価機構等からの医療安全情報の収集、製薬会社等からの医薬品安全情報の収集を行い、重要な情報はQSマネージャー会議を通して全職員へ周知

・ 未承認等の医薬品に関する情報のQS委員会への報告、QSマネージャー会議を通して全職員への周知

・ 医薬品安全管理部会における医薬品の安全使用のための検討

・ 医薬品の安全使用に関わる運用変更について、QS委員会への報告、QSマネージャー会議を通して全職員への周知

・ QSセンターカンファレンス（週1回）において医薬品に関するインシデントに関わる情報の収集、改善対策の検討・提案・実施

・ QSセンターの院内巡視に同行して部署での医薬品管理状況等を確認し、問題点の指摘、改善対策の検討・提案

・ 医療安全講演会を通して医薬品の安全管理・安全使用に関わる教育、情報・対策等の周知

・ 医薬品の安全使用に関する検討事項について、医薬品安全管理部会で改善対策を検討し、QS委員会に改善対策案を提示して承認取得後、QSマネージャー会議を通して全職員への周知

・ インシデントレポートを通して得た事例を、必要に応じて日本医療機能評価機構へ症例報告

・ 医薬品情報室でPMDAメディナビ等から収集した医薬品の安全使用に関わる情報を、病棟担当薬剤師を通して担当病棟の関係者に周知

など

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年121回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ・ 新規医療機器導入時の取り扱い説明・研修 ・ 人工呼吸器・補助循環装置・AED・CHDF装置等の安全研修 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>人工心肺装置・補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器（AED含む）・閉鎖式保育器・CTエックス線装置・診療用高エネルギー放射線発生装置・診療用放射線照射装置、その他保守契約締結機器の保守点検</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： <p>乳房再建のための脂肪採集に使用する吸引針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 医療安全情報・PMDA・メーカーからの情報収集 ・ インシデント事案の分析・検討し、現場へフィードバックを行う ・ 定期的に広報誌を発行し現場への周知を行う 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療の質向上・安全推進センター、医療の質向上・安全推進委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、臨床感染症センター、医療放射線安全推進センター等を統括する。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (13名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品安全管理責任者の指示の下、薬剤部医薬品情報室担当者により医薬品に関する安全性情報の収集・整理・院内職員への周知が行われ、病棟担当薬剤師からも担当病棟への情報提供を行っている。 ・PMDA メディナビおよび日本医療機能評価機構等からの医療安全情報、製薬会社等からの医薬品安全情報等を利用して定期的に行っている情報収集・整理・周知の他、臨時で行う緊急性のある情報提供では、薬剤部医薬品情報室担当者と連携し、院内メールや院内ポータルサイト、紙面等を適切に利用して情報の周知を行っている。 ・医薬品の安全使用に関わる運用変更について、QS 委員会へ報告し、QS マネージャー会議を通して全職員への周知を行っている。 ・QS マネージャー会議において、医薬品の安全性に関わる情報・未承認薬等の情報を報告し、全職員に周知している。 ・院内で発生した副作用報告を薬剤部と QS センターが連携して収集し、薬剤部で一元管理している。また、収集した院内及び院外の副作用情報を DI ニュースとして病棟担当薬剤師等を通じて医師・看護師等に周知している。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 ・未承認薬・医薬品の適応外使用および禁忌に該当する使用について、QS センターと薬剤部 DI 室が連携して対応している。QS センターで申請を受け付け、QS センターの専従薬剤師及び事務員が書式・申請内容・同意取得状況等の確認を行った後、薬剤部 DI 室の薬剤師が事前評価を行い、QS センターに情報提供し、QS センター管轄下の未承認新規・適応外医薬品等評価委員会で審査・経過確認を行っている。なお、未承認等の医薬品の使用に係る審査・経過報告等の情報は QS センターで管理しており、承認された医薬品に関しては、QS 委員会へ報告し、QS マネージャー 	

<p>会議を通して全職員への周知等を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の適応外使用および禁忌に該当する使用については、高リスク・中リスク・低リスクの3段階にリスク分類を行い、リスク分類により説明・同意取得の方法を設定している。また、使用条件や報告条件を設定し、報告書等により経過の把握を行っている。 ・担当者の指名の有無 <input checked="" type="radio"/>有・無 ・担当者の所属・職種： <ul style="list-style-type: none"> (所属：薬剤部, 職種 薬剤師) (所属： , 職種) (所属：QS センター, 職種 薬剤師) (所属： , 職種) (所属：QS センター, 職種 薬剤師) (所属： , 職種) (所属： , 職種) (所属： , 職種) 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 <input checked="" type="radio"/>有・無 ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：毎月のIC欄記載率、医療者側同席基準順守率、説明同意書の病院推奨様式使用率の集計に基づいて、目標値である80%より低い診療科に対して個別に、IC欄の活用等の依頼を行っている。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：責任者の統括のもと診療録が適切に記載されているかを確認するため、定期的に質的監査及び量的監査を実施している。監査結果は診療科長あてにフィードバックしている。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（10）名、専任（2）名、兼任（18）名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従（1）名、専任（2）名、兼任（10）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（1）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全推進に関すること ・臨床倫理に関すること ・特定診療に関すること ・有害事象発生時の支援に関すること ・インフォームドコンセントに関すること ・高難度新規医療技術に関すること 	

- ・ 未承認新規医薬品・医療機器に関すること
- ・ 適応外医療機器等に関すること
- ・ 渉外に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（43件）、及び許可件数（43件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合には、関係学会から示される「高難度 新規医療技術の導入を検討するに当たっての基本的な考え方」やガイドライン等を参考に実施する
 - ・ 審査と実施状況の監査、モニタリングを行う
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（27件）、及び許可件数（27件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 未承認新規医薬品等の使用に関する審査を行う。
 - ・ 未承認新規医薬品等に関する監査、モニタリングを行う。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 702 件

- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 181 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ・全死亡症例について、問題症例はなかったか確認する。
 - ・レベル 38 以上の事例について検討を行う。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有）（病院名：埼玉医科大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有）（病院名：埼玉医科大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
 - ・電子カルテと連動した転倒転落危険度のベッドネーム表示は、タイムロスなく正しい情報を共有することが可能なため、転倒転落だけでなく災害時にも効果的な方法であると感じました。
→災害時の使用という視点での周知はしておりませんでしたので、機会を見て周知を検討する。
 - ・医療機器の管理について、電子レンジなど電波障害の原因になる機器の管理もある程度は必要かと思いました。
→情報収集したところ、現在のところ大きな影響は見受けられないため対応は見送ることとした。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
患者サポートセンター、患者窓口

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
 - ・全職員対象医療安全講習会
 - ・新入職者対象医療安全講習会
 - ・研修医対象ポンプ・危険薬研修
 - ・新人看護師対象医療安全研修会
 - ・研修医対象医療安全セミナー

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

管理者（川合 謙介）

令和5年12月15日

2023年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構主催）受講

医療安全管理責任者（新保 昌久）

令和5年11月20日

2023年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構主催）受講

医薬品安全管理責任者（今井 靖）

令和6年2月6日

2023年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構主催）受講

医療機器安全管理責任者（川人 宏次）

令和5年12月15日

2023年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構主催）受講

医療放射線安全管理責任者（森 壘）

令和5年11月20日

2023年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構主催）受講

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価【一般病院3】

訪問審査受審日：2021年11月29日～12月1日

確認審査受審日：2023年4月26日

改善審査受審日：2024年8月29日

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

当院ホームページに公表している。

・ 評価を踏まえ講じた措置

C 評価を受けた下記の項目について、継続的な改善活動に取り組んでいる。

- (1) SSI サーベイランスの対象拡大
- (2) 臨床指標を活用した医療の質向上活動
- (3) 高難度新規医療技術等の実施後確認および医薬品の適応外使用の管理強化
- (4) 全職員を対象とした定期的な BLS 訓練の実施と受講者の把握
- (5) 薬剤師による処方鑑査の徹底
- (6) 読影率の向上

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容
 - ・ 人格、識見ともに優れ、かつ、教育、診療等においても指導力を発揮し得る能力を有すること。
 - ・ 臨床医学系又は基礎医学系の大学教授（これに相当する職を含む。）の経歴を有し、かつ、医師の資格を有すること。
 - ・ 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有すること。
 - ・ 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有すること。
 - ・ 自治医科大学の建学の精神、自治医科大学附属病院の理念を理解した上で、その実現のための明確なビジョンと実行力を有すること。
- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
大学HPにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) ・ 公表の方法 大学HPにて公表 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
永井 良三	学長	○	役職指定 (規程第4条第1項第1号)	有・無
田谷 聡	常務理事		役職指定 (規程第4条第1項第2号)	有・無
大槻 マミ太郎	副学長		役職指定 (規程第4条第1項第3号)	有・無
遠藤 俊輔	附属さいたま医療センター長		役職指定 (規程第4条第1項第5号)	有・無
佐田 尚宏	外科学講座(消化器一般移植外科学部門)教授、大学参与		医学部教授会で選出された教授 (規程第4条第1項第6号)	有・無
山本 博徳	内科学講座(消化器内科学部門)教授		医学部教授会で選出された教授 (規程第4条第1項第6号)	有・無
荻尾 七臣	内科学講座(循環器内科学部門)教授		医学部教授会で選出された教授 (規程第4条第1項第6号)	有・無
北村 一郎	栃木県副知事		医学又は医療に関し識見を有する学外の有識者: 栃木県の保健福祉に係る行政の担当責任者として、保健、福祉、医療について高い識見を有する (規程第4条第1項第7号)	有・無
宮澤 保春	南那須地区広域行政事務組合立那須南病院・病院長		医学又は医療に関し識見を有する学外の有識者: 病院管理者として、マネジメント及び医学、地域医療全般について高い識見を有する (規程第4条第1項第7号)	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための
合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院運営に必要な組織、財務、診療、医療安全、教育研修、広報等に関すること ・ 審議の概要の従業者への周知状況 院内ポータルサイト、診療代表者会議にて周知 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
川合 謙介	○	医師	病院長
松村 正巳		医師	副病院長
讚井 将満		医師	副病院長
藤原 寛行		医師	副病院長
小池 創一		医師	副病院長
今井 靖		医師	副病院長
福田 順子		看護師	副病院長
竹下 克志		医師	病院長補佐
西野 宏		医師	病院長補佐
新保 昌久		医師	病院長補佐
北山 丈二		医師	病院長補佐
小坂 仁		医師	病院長補佐
堀江 久永		医師	病院長補佐
鈴木 昭広		医師	病院長補佐
興梠 貴英		医師	病院長補佐
山本 真一		医師	病院長補佐
森 懇		医師	病院長補佐
平寄 正俊		事務職員	病院事務部長
北澤 剛 (オブザーバー)		事務職員	総務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
 - ・ 附属病院の内部組織、職及び運営について「自治医科大学附属病院組織に関する規程」
 - ・ 病院執行部の組織及び運営について「病院執行部規程」
 - ・ 病院執行部の補佐及び診療運営について「自治医科大学附属病院運営組織に関する規程」
 - ・ 附属病院の予算執行権限について「学校法人自治医科大学決裁規程」

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
別紙「令和5年度 病院長、副病院長、病院長補佐の職務・役割分担及び執行部会議
構成員」参照

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回 ・ 活動の主な内容： 附属病院における医療安全管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理等が管理者の下で適切に実施されているかどうかを確認し、必要に応じて是正措置を講ずるよう開設者及び管理者に意見を表明する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法： 病院ホームページに掲載 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
尾澤 巖	地方独立行政 法人 栃木県 立がんセンタ ー 理事長/ センター長	○	医療機関の管理 者として、医療機 関の安全管理を 総括・管理してい る経験を有する 立場で意見を述 べる者	有・無	1
内山 聖	(公財)新潟県 保健衛生セン ター 副 会長 学校法人 悠 久崇徳学園 常務理事		医療機関の管理 者として、医療機 関の安全管理を 総括・管理してい る経験を有する 立場で意見を述 べる者	有・無	1
山口 育子	認定NPO法 人 ささえあい 医療人権セン		患者団体の理事 長として医療問 題に精通してお	有・無	2

	ターCOML 理事長		り、医療を受ける者の代表として意見を述べる者		
大槻 マミ太郎	自治医科大学副学長		自治医科大学副学長として、大学理事の立場で意見を述べる者	有・無	1
齊藤 正昭	自治医科大学附属さいたま医療センター医療安全管理室 室長		自治医科大学附属さいたま医療センター医療安全管理室長として、医療安全管理の専門の立場から意見を述べる者	有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が
法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

学校法人自治医科大学監事監査規程に基づき、監事による定期的な監査を実施。

- ・ 専門部署の設置の有無（有・無）
- ・ 内部規程の整備の有無（有・無）
- ・ 内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による
業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 年2回開催し、附属病院の予算案及び予算執行状況並びに組織管理体制、人事等について審議を行った。 ・ 会議体の実施状況（ 年2回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ）（ 年2回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 通報件数 (年0件)
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)
- ・ 周知の方法
QSマネジメントマニュアルに掲載